

基礎看護学特講

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授業科目 区分	専門科目【 基盤・成熟期看護学 】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授業科目 区分	専門科目【 基盤・成熟期看護学 】	
授業科目名 (英文名)	基礎看護学特講 (Special Seminar in fundamental Nursing)					授業科目名 (英文名)	基礎看護学特講 (Special Seminar in fundamental Nursing)				
担当教員	○片山はるみ					担当教員	○片山はるみ、村松妙子				
講義回数	15回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	15回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					単位	2				
開講期	通年	形態	講義			開講期	通年	形態	講義		
授業の目標及び概要	<p>【目標】研究活動を継続・発展させていくための研究者・教育者・看護管理者としての能力の基盤を形成する。</p> <p>【概要】看護学の基盤となる看護理論の生成、看護モデルの構築、概念分析など基本的な知識や、時代のトピックスとなるような思考方法に関する知識を得、看護学や周辺領域・異分野の知識を組み立てて新たな知の体系を作る方法を学修し、また英語の原書を抄読することで国際的に使用されている専門用語や重要概念について理解を深める。</p>					<p>看護学の基盤となる看護理論の生成、看護モデルの構築、概念分析など基本的な知識や、時代のトピックスとなるような思考方法に関する知識を得、看護学や周辺領域の知識を組み立てて新たな知の体系を作ることや、研究活動を継続・発展させていくための研究者・教育者・看護管理者としての能力の基盤を形成する。</p>					
授業の内容	第1回	オリエンテーション：【担当：片山】 教員のオリエンテーションにより、学生はこのコースの全容を理解し、学修目標を確認する。				授業の内容	第1回	オリエンテーション：【担当：片山・村松】 教員のオリエンテーションにより、学生はこのコースの全容を理解し、学修目標を確認する。			
	第2回	Chapter 1 Theory in Nursing: Where Have We Been? (前半) 【担当：片山】					第2回	Chapter 1 Theory in Nursing: Where Have We Been? (前半) 【担当：片山・村松】			

		看護における理論とは何かについて学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。			学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第3回	Chapter 1 Theory in Nursing: Where Have We Been? (後半) 【担当：片山】	看護における理論とは何かについて学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第3回	Chapter 1 Theory in Nursing: Where Have We Been? (後半) 【担当：片山・村松】	学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第4回	Chapter 2 Using Knowledge Development and Theoly to Inform Practice 【担当：片山】	知識の開発と理論の活用について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第4回	Chapter 2 Using Knowledge Development and Theoly to Inform Practice 【担当：片山・村松】	学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第5回	Chapter 4 Approaches to Theory Development 【担当：片山】	理論開発のアプローチについて学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第5回	Chapter 4 Approaches to Theory Development 【担当：片山・村松】	学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第6回	Chapter 4 Concept Derivati 【担当：片山】	概念の派生について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第6回	Chapter 4 Concept Derivatin 【担当：片山・村松】	学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第7回	Chapter 5 Statement Derivation 【担当：片山】	ステートメントの導出について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第7回	Chapter 5 Statement Derivation 【担当：片山・村松】	学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第8回	Chapter 6 Theory Derivation 【担当：片山】	理論の導出について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第8回	Chapter 6 Theory Derivation 【担当：片山・村松】	学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第9回	Chapter 7 Concept Synthesis 【担当：片山】		第9回	Chapter 7 Concept Synthesis 【担当：片山・村松】	

回	概念の統合について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	回	学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第10回	Chapter 8 Statement Synthesis 【担当：片山】 ステートメントの統合について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第10回	Chapter 8 Statement Synthesis 【担当：片山・村松】 学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第11回	Chapter 9 Theory Synthesis 【担当：片山】 理論の統合について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第11回	Chapter 9 Theory Synthesis 【担当：片山・村松】 学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第12回	Chapter 10 Concept Analysis 【担当：片山】 概念分析について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第12回	Chapter 10 Concept Analysis 【担当：片山・村松】 学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第13回	Chapter 11 Statement Analysis 【担当：片山】 ステートメント分析について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第13回	Chapter 11 Statement Analysis 【担当：片山・村松】 学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第14回	Chapter 12 Theory Analysis 【担当：片山】 理論分析について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第14回	Chapter 12 Theory Analysis 【担当：片山・村松】 学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。
第15回	Chapter 13 Assessing the Credibility and Scope of Nursing Knowledge Development: Concepts, Statements, and Theories 【担当：片山】 看護の知識の開発における信頼性と範囲の評価について学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第15回	Chapter 13 Assessing the Credibility and Scope of Nursing Knowledge Development: Concepts, Statements, and Theories 【担当：片山・村松】 学生が抄読・プレゼンテーションをし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。

授業方法の特徴	学生の自発的・主体的な取り組みを重視し、教員は学生の学修が促進されるよう、適切な課題の設定を行うとともに、プレゼンテーションを支援・助言する。また国際的に使用されている専門用語や概念の理解を深めるため、英語の原書を抄読する。	授業方法の特徴	学生の自発的・主体的な取り組みを重視し、教員は学生の学修が促進されるよう、適切な課題の設定を行うとともに、プレゼンテーションを支援・助言する。
テキスト	Strategies for Theory Construction in Nursing 6 Edition, 2018/3/29, Walker RN EdD FAAN & Lorraine	テキスト	Strategies for Theory Construction in Nursing 6 Edition, 2018/3/29, Walker RN EdD FAAN & Lorraine
参考書・参考資料等	教員が適宜示す	参考書・参考資料等	適宜示す
成績評価の方法と採点基準	授業への準備状況 (25%)、プレゼンテーションの内容 (50%)、討論内容 (25%) を総合評価する。評価点が 60 点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満 (100 点満点評価)	成績評価の方法と採点基準	プレゼンテーションの内容、授業への参加・発言状況によって評価する。評価点が 60 点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満 (100 点満点評価)
その他	特になし	その他	特になし

基礎看護学特別演習

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【 基盤・成熟期看護学 】			研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【 基盤・成熟期看護学 】		
授業科目名 (英文名)	基礎看護学特別演習 (Special Practice in fundamental Nursing)					授業科目名 (英文名)	基礎看護学特別演習 (Special Practice in fundamental Nursing)				
担当教員	○片山はるみ					担当教員	○片山はるみ、村松妙子				
講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					単位	2				
開講期	通年	形態	演習			開講期	通年	形態	演習		
授業の目標及び概要	<p>目標は、博士論文作成に必要な研究方法を理解し、研究計画書が作成できることとする。基礎看護学領域における看護管理、看護教育、看護倫理等に関する研究課題や健康科学領域のトピックスに関する文献クリティークや研究指導・討議を通じ、研究方法論について理解を深め、自らの課題探究に必要な研究手法を理解し、研究計画を作成する。</p>					<p>基礎看護学領域における看護管理、看護教育、看護倫理等に関連する研究課題に関する文献クリティークや研究指導を通じ、研究方法論について理解を深め、自らの課題探究に必要な研究手法を身に付けることができる。また、研究課題について検討・討議し、研究計画を作成できる。</p>					
授業の内容	第1回～10回	<p>文献クリティーク 基礎看護学領域における看護管理、看護教育、看護倫理等に関連する、博士論文作成に必要な、また健康科学領域における、博士論文作成に関連する国内・外の文献クリティークを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。</p>				授業の内容	第1回～10回	<p>文献クリティーク：【担当：片山、村松】 基礎看護学領域における看護管理、看護教育、看護倫理等に関連する、博士論文作成に必要な国内・外の文献クリティークを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。</p>			
	第11回～	<p>研究指導演習 学部生の卒業研究や博士前期課程学生の研究活動の指導に参加し、研</p>					第11回～	<p>研究指導演習：【担当：片山、村松】 学部生の卒業研究や博士前期課程学生の研究活動の指導に参加し、研</p>			

	20回	<p>実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深め、研究活動における指導的役割についても学修する。</p>		20回	<p>実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深め、研究活動における指導的役割についても学修する。</p>
	第21回～30回	<p>研究計画作成に向けた演習 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画を作成する。自身の研究計画、研究の進捗状況について、研究課題に至る論理的思考の構築、研究方法の選択、データ分析の手法の修得、得られた結果から考察を導く、学会発表の予行等、定期的にプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねる。健康科学領域の教員と研究課題や研究手法を共有することで、多様な研究課題や研究手法についての理解を深める。</p>		第21回～30回	<p>研究計画作成に向けた演習：【担当：片山、村松】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画を作成する。</p>
授業方法の特徴	<p>学生の自発的・主体的な取り組みを重視し、教員は学生の学修が促進されるよう、適切な課題の設定を行うとともに、研究計画の作成を指導する。 健康科学特別演習との合同演習を、5回以上開催する。どの授業を合同とするかは適宜指示する。</p>		授業方法の特徴	<p>学生の自発的・主体的な取り組みを重視し、教員は学生の学修が促進されるよう、適切な課題の設定を行うとともに、学習・研究計画を指導する。</p>	
テキスト	なし		テキスト	なし	
参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する		参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する	
成績評価の方法と採点基準	<p>授業への準備状況(25%)、研究計画書の内容(50%)、討議内容(25%)によって総合評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、</p>		成績評価の方法と採点基準	<p>授業への自主的な取り組み、討論内容、研究計画の内容によって評価し、60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、</p>	

	不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、 可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）		不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、 可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）
その他	特になし	その他	特になし

健康科学特講

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】	
授業科目名 (英文名)	健康科学特講 (Special Seminar in Health Science)					授業科目名 (英文名)	健康科学特講 (Special Seminar in Health Science)				
担当教員	○永田 年、山下寛奈					担当教員	○永田 年、山下寛奈				
講義回数	15回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	15回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					開講期	通年				
授業の目標及び概要	<p>【目標】健康科学領域の今日的課題を深く理解し、看護学の視点で考察できる能力を養う。</p> <p>【概要】健康科学領域の課題に関する英文および和文の総説論文を読み込み、内容について討論する。</p>					<p>ゲノム編集、新型コロナウイルス感染症など、健康科学・看護学・医学分野における最新のトピックについて、研究論文や総説等の文献読解を通じて深く探究する。</p> <p>課題AとBは交互に行う。</p>					
授業の内容	第1回	オリエンテーション【担当：永田】 課題A（感染症関連）（1）：【担当：永田・山下】 課題テーマ（新型コロナウイルス感染症）について概要を教授する。				授業の内容	第1回	課題A（1）：【担当：永田】 課題テーマおよび課題論文について概要を教授する。			
	第2回	課題A（感染症関連）（2）：【担当：永田・山下】 新型コロナウイルス感染症の病態に関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。					第2回	課題B（1）：【担当：山下】 課題テーマおよび課題論文について概要を教授する。			
	第3回	課題A（感染症関連）（3）：【担当：永田・山下】									

回	新型コロナウイルス感染症の感染に関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。					第3・5・7回	課題A（2～4）：【担当：永田】 課題論文の指定箇所についてのディスカッションを行う。						
第4回	課題A（感染症関連）（4）：【担当：永田・山下】 新型コロナウイルス感染症の看護ケアに関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。						第4・6・8回	課題B（2～4）：【担当：山下】 課題論文の指定箇所についてのディスカッションを行う					
第5回	課題A（感染症学関連）（5）：【担当：永田・山下】 学生が自身で選択した関連論文について抄読・プレゼンテーションを行い、学生・教員間でディスカッションを行う。							第9・11・13回	課題A（5～7）：【担当：永田】 学生が選択した研究論文についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。				
第6回	課題B（疼痛関連）（1）：【担当：山下・永田】 課題テーマについて概要を教授する。												
第7回	課題B（疼痛関連）（2）：【担当：山下・永田】 疼痛の末梢メカニズムに関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。												
第8回	課題B（疼痛関連）（3）：【担当：山下・永田】 疼痛の中核メカニズムに関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。												
第9回	課題B（疼痛関連）（4）：【担当：山下・永田】 疼痛と情動に関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員が内容を補足・解説しながらディスカッションを行う。												
第10回	課題B（疼痛関連）（5）：【担当：山下・永田】 学生が自身で選択した関連論文について抄読・プレゼンテーションを												

	行い、学生・教員間でディスカッションを行う。		
第11回	課題C (遺伝子操作関連) (1):【担当:永田・山下】 課題テーマ (ゲノム編集) について概要を教授する。		
第12回	課題C (遺伝子操作関連) (2):【担当:永田・山下】 ゲノム編集のメカニズムに関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。	第10・12・14回	課題B (5):【担当:山下】 学生が選択した研究論文についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。
第13回	課題C (遺伝子操作関連) (3):【担当:永田・山下】 ゲノム編集の応用に関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。		
第14回	課題C (遺伝子操作関連) (4):【担当:永田・山下】 ゲノム編集に関する倫理的問題に関する課題論文を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員は内容を補足・解説しながらディスカッションを深める。		
第15回	課題C (遺伝子操作関連) (5):【担当:永田・山下】 学生が自身で選択した関連論文について抄読・プレゼンテーションを行い、学生・教員間でディスカッションを行う。	第15回	総括:【担当:永田・山下】 課題Aおよび課題Bについてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。
授業方法の特徴	教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。 第1回～第5回、第11回～第15回は永田が主に担当し山下が助言をする。第6回～第10回は山下が主に担当し永田が助言する。	授業方法の特徴	教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。
テキスト	教員が適宜準備する。(Nature Reviews 誌、Scientific American 誌等)	テキスト	各教員が適宜準備する。

参考書・参考資料等	教員が適宜準備する。	参考書・参考資料等	各指導教員が適宜準備する。
成績評価の方法と採点基準	プレゼンテーション(40%)、授業における積極的取組み(10%)、および課題レポート(50%)を総合評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀:90点以上、優:80点以上90点未満、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満(100点満点評価)	成績評価の方法と採点基準	プレゼンテーションの内容、授業への参加・発言状況によって評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀:90点以上、優:80点以上90点未満、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満(100点満点評価)
その他	特になし	その他	特になし

健康科学特別演習

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授業科目 区分	専門科目【 基盤・成熟期看護学 】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授業科目 区分	専門科目【 基盤・成熟期看護学 】	
授業科目名 (英文名)	健康科学特別演習 (Special Practice in Health Science)					授業科目名 (英文名)	健康科学特別演習 (Special Practice in Health Science)				
担当教員	○永田 年、山下寛奈					担当教員	○永田 年、山下寛奈				
講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					単位	2				
開講期	通年	形態	演習			開講期	通年	形態	演習		
授業の目標及び概要	<p>【目標】博士論文作成準備のための方法・考え方を身に付け研究遂行能力を養成する。</p> <p>【概要】健康科学領域の自らの研究課題に関連するトピックスや基礎看護学領域の課題に関する文献クリティーク等を通じて健康科学、基礎看護学に関する理解を深める、さらに自らの研究課題に応じた研究方法について検討・討議し、研究計画を立案・作成する。</p>					授業の目標及び概要	<p>様々な健康科学の事項の中から看護学あるいは学生自らの研究課題に関連するトピックを選び、文献クリティーク等を通じて理解を深める、さらに自らの研究課題に応じた研究方法について検討・討議し、研究計画の概要を説明できる。</p>				
授業の内容	第1回～10回	文献クリティーク：【担当：永田・山下】 健康科学領域における博士論文作成に必要な、また基礎看護学領域における博士論文作成に関連する国内・外の文献クリティークを通じ研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。				授業の内容	文献クリティーク：【担当：永田、山下】 医学・看護学における博士論文相当の文献クリティークを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。				
	第11回	研究指導演習：【担当：永田・山下】					研究指導演習：【担当：永田、山下】				

	回～20回	学部生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深め、 研究活動における指導的役割についても学修する。		学部生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。	
	第21回～30回	研究計画作成に向けた演習：【担当：永田・山下】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画を作成する。自身の研究計画、研究の進捗状況について、研究課題に至る論理的思考の構築、研究方法の選択、データ分析の手法の修得、得られた結果から考察を導く、学会発表の予行等、定期的にプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねる。基礎看護学領域の教員と研究課題や研究手法を共有することで、多様な研究課題や研究手法についての理解を深める。		研究計画作成に向けた演習：【担当：永田、山下】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画の概要を作成する。	
授業方法の特徴	学生と教員との継続的な対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。 永田が主に進行し、山下はディスカッションの中で助言し、内容を深めていく。 基礎看護学特別演習との合同授業を、5回以上開催する。どの授業を合同とするかは適宜指示する。		授業方法の特徴	学生と教員との継続的な対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。	
テキスト	なし		テキスト	なし	
参考書・参考資料等	教員が適宜指示する。		参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する	

成績評価の方法と採点基準	<p>文献クリティークのレポート(40%)、研究計画書の内容(40%)、討議内容(25%)によって総合評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>	成績評価の方法と採点基準	<p>授業への自主的な取り組み、討論内容、研究計画の内容によって評価し、60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>
その他	特になし	その他	特になし

成人看護学特講

新					旧						
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】			
授業科目名 (英文名)	成人看護学特講 (Special Seminar in Adult Nursing)				授業科目名 (英文名)	成人看護学特講 (Special Seminar in Adult Nursing)					
担当教員	○脇坂 浩、影山 葉子				担当教員	○佐藤 直美、脇坂 浩、影山 葉子					
講義回数	15回	必修	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	15回	必修	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2	選択の別				単位	2	選択の別			
開講期	通年	形態	講義		開講期	通年	形態	講義			
授業の目標及び概要	人のライフサイクルにおいて長期間にわたる成人期にある対象の理解、健康障害や治療の特徴を踏まえた看護支援の提供、療養生活への支援、家族への支援等、成人看護学領域における主要なテーマについて、 国内外の研究論文や単行本等の文献抄読を通じ深く探究する。				授業の目標及び概要	人のライフサイクルにおいて長期間にわたる成人期にある対象の理解、健康障害や治療の特徴を踏まえた看護支援の提供、療養生活への支援、家族への支援等、成人看護学領域における主要なテーマについて、 研究論文や単行本等の文献抄読を通じ深く探究する。					
授業の内容	第1回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（1）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）および関連する書物について概要を教授する。			授業の内容	第1回	人間の生に関する探究（1）：【担当：佐藤】 課題図書（Man's Search for Meaning）および関連する書物について概要を教授する。				
	第2回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（2）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の指定箇所についてのディスカッションを行う。				第2回	人間の生に関する探究（2）：【担当：佐藤】 課題図書（Man's Search for Meaning）の指定箇所についてのディスカッションを行う。				
	第3回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（3）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の指定箇所について				第3回	人間の生に関する探究（3）：【担当：佐藤】 課題図書（Man's Search for Meaning）の指定箇所についてのディスカッションを行う。				

		でのディスカッションを行う。					ションを行う。		
第4回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（4）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の指定箇所についてのディスカッションを行う。				第4回	人間の生に関する探究（4）：【担当：佐藤】 課題図書（Man's Search for Meaning）の指定箇所についてのディスカッションを行う。			
第5回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（5）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の学生が選択した箇所についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。				第5回	人間の生に関する探究（5）：【担当：佐藤】 課題図書（Man's Search for Meaning）の学生が選択した箇所についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。			
第6回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（6）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の学生が選択した箇所についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。				第6回	人間の生に関する探究（6）：【担当：佐藤】 課題図書（Man's Search for Meaning）の関連する文献についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。			
第7回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（7）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の学生が選択した箇所についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。				第7回	家族看護に関する探究（1）：【担当：影山】 看護学における家族のとらえ方と、そのベースとなるジェンダーや倫理的な問題について教授する。			
第8回	回復期・移行期にある対象への看護に関する探究（1）：【担当：影山】 疾病経過・健康レベルでとらえた回復期・移行期看護の特徴と、退院支援について教授する。				第8回	家族看護に関する探究（2）：【担当：影山】 家族看護に関する研究論文のクリティークを中心にディスカッションを行う。			
第9回	回復期・移行期にある対象への看護に関する探究（2）：【担当：影山】 課題図書（回復期・移行期に用いられる理論）および退院支援に関連する書物について概要を教授する。				第9回	家族看護に関する探究（3）：【担当：影山】 家族看護に関する研究論文のクリティークを中心にディスカッションを行う。			
第10回	回復期・移行期にある対象への看護に関する探究（3）：【担当：影山】 回復期・移行期の看護および退院支援に関する研究論文のクリティークを中心にディスカッションを行う。				第10回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（1）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）および関連する書物について概要を教授する。			
第11回	回復期・移行期にある対象への看護に関する探究（4）：【担当：影山】				第11回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（2）：【担当：脇坂】			

回	回復期・移行期の看護および退院支援に関する研究論文のクリティークを中心にディスカッションを行う。	回	課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の指定箇所についてのディスカッションを行う。
第12回	家族看護に関する探究（1）：【担当：影山】 看護学における家族のとらえ方と、そのベースとなるジェンダーや倫理的な問題について、異分野の研究も踏まえて教授する。	第12回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（3）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の指定箇所についてのディスカッションを行う。
第13回	家族看護に関する探究（2）：【担当：影山】 課題図書（家族看護に関する理論とその周辺理論）の指定箇所についてのディスカッションを行う。	第13回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（4）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の指定箇所についてのディスカッションを行う。
第14回	家族看護に関する探究（3）：【担当：影山】 家族看護に関する研究論文のクリティークを中心にディスカッションを行う。	第14回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（5）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の学生が選択した箇所についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。
第15回	家族看護に関する探究（4）：【担当：影山】 家族看護に関する研究論文のクリティークを中心にディスカッションを行う。	第15回	状況的危機にある対象への看護に関する探究（6）：【担当：脇坂】 課題図書（危機理論・危機モデルとその周辺理論）の学生が選択した箇所についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。
授業方法の特徴	教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。	授業方法の特徴	教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。
テキスト	Meleis, A. I. ed. (2010). <i>Transitions Theory: Middle-Range and Situation-Specific Theories in Nursing Research and Practice</i> , NY, Springer Publishing Company Peterson, S. J. & Bredow T. S. (2020). <i>Middle Range Theories:</i>	テキスト	Man's Search for Meaning (Frankl V.E.) 他各指導教員が適宜準備する。

	Application to Nursing Research and Practice, Philadelphia, Wolters Kluwer 他各指導教員が適宜準備する。		
参考書・参考資料等	Donna C. Aguilera(1998).Crisis Intervention: Theory and Methodology(8th Edition), Mosby. 他各指導教員が適宜準備する。	参考書・参考資料等	各指導教員が適宜準備する。
成績評価の方法と採点基準	プレゼンテーションの内容およびディスカッションでの参加・発言状況（60%）、課題レポート（40%）を総合評価する。課題レポートの評価は、プレゼンテーションおよびディスカッションの説明として作成された資料で行う。 評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）	成績評価の方法と採点基準	プレゼンテーションの内容、授業への参加・発言状況によって評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）
その他	特になし	その他	特になし

成人看護学特別演習

新					旧						
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】			
授業科目名 (英文名)	成人看護学特別演習 (Special Practice in Adult Nursing)				授業科目名 (英文名)	成人看護学特別演習 (Special Practice in Adult Nursing)					
担当教員	○脇坂 浩、影山 葉子				担当教員	○佐藤 直美、脇坂 浩、影山 葉子					
講義回数	30回	必修	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	30回	必修	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2	選択の別				単位	2	選択の別			
開講期	通年	形態	演習		開講期	通年	形態	演習			
授業の目標及び概要	成人看護学領域での主要な研究課題に関する文献クリティークや研究指導の演習を通じ、研究方法論について理解を深め、自らの課題探究のための予備的スキルを修得する。専門分野の学問とその周辺の学問の知見を結集して、自らの研究課題を見出すことができる。自らの研究課題に応じた研究方法について検討・討議し、研究計画の概要を説明できる。				授業の目標及び概要	成人看護学領域での主要な研究課題に関する文献クリティークや研究指導の演習を通じ、研究方法論について理解を深め、自らの課題探究のための予備的スキルを修得する。自らの研究課題に応じた研究方法について検討・討議し、研究計画の概要を説明できる。					
授業の内容	第1回～10回	文献クリティーク：【担当：脇坂、影山】 成人看護学領域における博士論文相当の文献クリティークを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を学際的な視点から検討し、自らの研究計画への活用について探究する。			授業の内容	第1回～10回	文献クリティーク：【担当：佐藤、脇坂、影山】 成人看護学領域における博士論文相当の文献クリティークを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。				
	第11回～	研究指導演習：【担当：脇坂、影山】 学部生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支				第11回～	研究指導演習：【担当：佐藤、脇坂、影山】 学部生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・				

	20回	援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。		20回	指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。
	第21回～30回	研究計画作成に向けた演習：【担当：脇坂、影山】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画の概要を作成する。		第21回～30回	研究計画作成に向けた演習：【担当：佐藤、脇坂、影山】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画の概要を作成する。
授業方法の特徴	学生と教員との継続的な対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。 高齢者看護学特別演習との合同授業を、5回以上開催する。どの授業を合同とするかは適宜指示する。			授業方法の特徴	学生と教員との継続的な対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。
テキスト	なし			テキスト	なし
参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する			参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する
成績評価の方法と採点基準	プレゼンテーションの内容およびディスカッションでの参加・発言状況(40%)、課題レポート(60%)を総合評価する。課題レポートの評価は、文献クリティーク、研究活動のプロセス、研究計画におけるプレゼンテーションの説明として作成された資料で行う。 評価点が、60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、			成績評価の方法と採点基準	授業への自主的な取り組み、討論内容、研究計画の内容によって評価し、60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、

	可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）		可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）
その他	特になし	その他	特になし

高齢者看護学特講

新					旧						
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】			
授業科目名 (英文名)	高齢者看護学特講 (Special Seminar in Gerontological Nursing)				授業科目名 (英文名)	高齢者看護学特講 (Special Seminar in Gerontological Nursing)					
担当教員	○鈴木みずえ、金盛琢也				担当教員	○鈴木みずえ、金盛琢也					
講義回数	15回	必修	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	15回	必修	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2	選択の別				単位	2	選択の別			
開講期	通年	形態	講義		開講期	通年	形態	講義			
授業の目標及び概要	人のライフサイクルにおける最終段階の老人期にある対象の理解、健康障害や治療の特徴を踏まえた看護支援の提供、療養生活への支援等、高齢者看護学領域における主要なテーマについて、研究論文や単行本等の文献抄読を通じ深く探究する。老年期にある人と家族を中心とした健康と生活を支える看護理論、およびエビデンスに基づく看護のあり方を探求する。				授業の目標及び概要	人のライフサイクルにおける最終段階の老人期にある対象の理解、健康障害や治療の特徴を踏まえた看護支援の提供、療養生活への支援等、高齢者看護学領域における主要なテーマについて、研究論文や単行本等の文献抄読を通じ深く探究する。老年期にある人と家族を中心とした健康と生活を支える看護理論、およびエビデンスに基づく看護のあり方を探求する。					
授業の内容	第1回	オリエンテーション：【担当：鈴木、金盛】 高齢者看護学研究の方法論・特徴と履修者の研究テーマの 高齢者看護学における位置づけ				授業の内容	第1回	オリエンテーション：【担当：鈴木、金盛】 履修者の研究テーマの 高齢者看護学における位置づけ			
	第2回	高齢者看護学の研究動向(国内)：【担当：鈴木、金盛】 (加齢変化に伴う ADL・身体機能評価とその特徴) 文献レビューと討議					第2回	高齢者看護学の研究動向(国内)：【担当：鈴木、金盛】 (ADL・身体機能評価) 文献レビュー			

第3回	高齢者看護学の研究動向(国内)：【担当：鈴木、金盛】 (生きがい・心理的側面・ソーシャルサポート・家族との関係の特徴) 文献レビューと討議	第3回	高齢者看護学の研究動向(国内)：【担当：鈴木、金盛】 (生きがい・心理的側面・ソーシャルサポート) 文献レビュー
第4回	高齢者看護学の研究動向(国内)：【担当：鈴木、金盛】 (認知症に関する課題と生活の場によって異なる研究テーマの特徴) 文献レビューと討議	第4回	高齢者看護学の研究動向(国内)：【担当：鈴木、金盛】 (認知症) 文献レビュー
第5回	高齢者看護学の研究動向(国内)：【担当：鈴木、金盛】 (介護予防・転倒予防の研究テーマの動向と今後の展開) 文献レビューと討議	第5回	高齢者看護学の研究動向(国内)：【担当：鈴木、金盛】 (介護予防・転倒予防) 文献レビュー
第6回	高齢者看護学の研究動向(海外)：【担当：鈴木、金盛】 (地域包括ケアシステムにおける高齢者の心身機能や QOL の維持・向上) 文献レビューと討議	第6回	高齢者看護学の研究動向(海外)：【担当：鈴木、金盛】 (地域包括ケアシステム) 文献レビュー
第7回	高齢者看護学の研究動向(海外)：【担当：鈴木、金盛】 (最新トピック：AI、ロボット、新しい介護保険評価システムなど) 文献レビューと討議	第7回	高齢者看護学の研究動向(海外)：【担当：鈴木、金盛】 (最新トピック) 文献レビュー
第8回	高齢者看護学と EBN(1) (基礎編)：【担当：鈴木、金盛】 質的研究の特徴と今後の研究テーマと動向を明確にするための文献レビューと討議	第8回	高齢者看護学と EBN(1) (基礎編)：【担当：鈴木、金盛】 質的研究文献レビュー
第9回	高齢者看護学と EBN(1) (応用編)：【担当：鈴木、金盛】 質的研究の特徴と今後の研究テーマと動向を明確にするための文献レビューと討議	第9回	高齢者看護学と EBN(1) (応用編)：【担当：鈴木、金盛】 質的研究文献レビュー
第10回	高齢者看護学と EBN(2) (基礎編)：【担当：鈴木、金盛】 エスノグラフィーの特徴と方法論に関する文献レビューと討議	第10回	高齢者看護学と EBN(2) (基礎編)：【担当：鈴木、金盛】 エスノグラフィー文献レビュー

第11回	高齢者看護学とEBN(2) (応用編)：【担当：鈴木、金盛】 エスノグラフィーの研究テーマと今後の動向を明確にするための文献レビューと討議	第11回	高齢者看護学とEBN(2) (応用編)：【担当：鈴木、金盛】 エスノグラフィー文献レビュー
第12回	高齢者看護学とEBN(3) (基礎編)：【担当：鈴木、金盛】 観察研究の特徴と方法論に関する文献レビューと討議	第12回	年看護学とEBN(3) (基礎編)：【担当：鈴木、金盛】 観察研究文献レビュー
第13回	高齢者看護学とEBN(3) (応用編)：【担当：鈴木、金盛】 観察研究の研究テーマと今後の動向を明確にするための文献レビューと討議	第13回	高齢者看護学とEBN(3) (応用編)：【担当：鈴木、金盛】 観察研究文献レビュー
第14回	高齢者看護学とEBN(4) (基礎編)：【担当：鈴木、金盛】 介入研究(RCT)の特徴と方法論に関する文献レビューと討議	第14回	高齢者看護学とEBN(4) (基礎編)：【担当：鈴木、金盛】 介入研究(RCT)文献レビュー
第15回	高齢者看護学とEBN(4) (応用編)：【担当：鈴木、金盛】 介入研究(RCT)の研究テーマと今後の動向を明確にするための文献レビューと討議	第15回	高齢者看護学とEBN(4) (応用編)：【担当：鈴木、金盛】 介入研究(RCT)文献レビュー
授業方法の特徴	教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。 文献レビューの方法の指導を金盛が担当し、討議における高齢者看護学の特徴や今後の展開を鈴木が担当する。	授業方法の特徴	教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。
テキスト	・Alison E. Kris, Gerontological Nurse Certification Review 第2版, Springer Publishing Company;, 2015	テキスト	・Alison E. Kris, Gerontological Nurse Certification Review 第2版, Springer Publishing Company;, 2015
参考書・参考資料等	・近藤 克則, ソーシャル・キャピタルと健康・福祉:実証研究の手法から政策・実践への応用までソーシャル・キャピタル, ミネルヴァ書房, 2020 ・森田達也, 臨床をしながらできる国際水準の研究のまとめ方・緩和ケアではこうする, 青海社 ・森田達也, 死亡直前と看取りのエビデンス, 医学書院, 2015/10/8 ・近藤 克則, 研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」,2018	参考書・参考資料等	・近藤 克則, ソーシャル・キャピタルと健康・福祉:実証研究の手法から政策・実践への応用までソーシャル・キャピタル, ミネルヴァ書房, 2020 ・森田達也, 臨床をしながらできる国際水準の研究のまとめ方・緩和ケアではこうする, 青海社 ・森田達也, 死亡直前と看取りのエビデンス, 医学書院, 2015/10/8 ・近藤 克則, 研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」,2018

	各指導教員が適宜準備する。		各指導教員が適宜準備する。
成績評価の方法と採点基準	受講態度(講義への参加、プレゼンテーションなど)(30%)、小テスト(30%)、討議および課題レポート(40%)を総合評価する。 評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満(100点満点評価)	成績評価の方法と採点基準	プレゼンテーションの内容、授業への参加・発言状況によって評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満(100点満点評価)
その他	特になし	その他	特になし

高齢者看護学特別演習

新					旧						
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【基盤・成熟期看護学】			
授業科目名 (英文名)	高齢者看護学特別演習 (Special Practice in Gerontological Nursing)				授業科目名 (英文名)	高齢者看護学特別演習 (Special Practice in Gerontological Nursing)					
担当教員	○鈴木みずえ、金盛琢也				担当教員	○鈴木みずえ、金盛琢也					
講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					単位	2				
開講期	通年	形態	演習		開講期	通年	形態	演習			
授業の目標及び概要	高齢者看護学領域での主要な研究課題に関する文献クリティックや研究指導の演習を通じ、研究方法論について理解を深め、自らの課題探究のための予備的スキルを修得する。自らの研究課題に応じた研究方法について検討・討議し、研究計画の概要を説明できる。				授業の目標及び概要	高齢者看護学領域での主要な研究課題に関する文献クリティックや研究指導の演習を通じ、研究方法論について理解を深め、自らの課題探究のための予備的スキルを修得する。自らの研究課題に応じた研究方法について検討・討議し、研究計画の概要を説明できる。					
授業の内容	第1-5回	文献クリティック：【担当：鈴木、金盛】 高齢者看護学領域における博士論文相当の文献クリティックを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。				授業の内容	1-5回	文献クリティック：【担当：鈴木、金盛】 高齢者看護学領域における博士論文相当の文献クリティックを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。			
	第6-10回	研究指導演習：【担当：鈴木、金盛】 学部生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。					6-10回	研究指導演習：【担当：鈴木、金盛】 学部生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。			

	第10-15回	研究計画作成に向けた演習：【担当：鈴木、金盛】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画の概要を作成する。		10-15回	研究計画作成に向けた演習：【担当：鈴木、金盛】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画の概要を作成する。
	第15-20回	予備的調査によるデータ分析に関する演習：【担当：鈴木、金盛】 自らの研究課題を明確化した研究計画の概要から予備的調査を実施し、データ分析を行い、研究方法の妥当性・信頼性を検討する。		15-20回	予備的調査によるデータ分析に関する演習：【担当：鈴木、金盛】 自らの研究課題を明確化した研究計画の概要から予備的調査を実施し、データ分析を行い、研究方法の妥当性・信頼性を検討する。
	第20-25回	本研究に向けた研究テーマと目的の検討：【担当：鈴木、金盛】 予備的調査によるデータ分析に関する演習から、研究テーマや方法に関して再度、本研究に向けて研究のテーマ、目的を検討する。		20-25回	本研究に向けた研究テーマと目的の検討：【担当：鈴木、金盛】 予備的調査によるデータ分析に関する演習から、研究テーマや方法に関して再度、本研究に向けて研究のテーマ、目的を検討する。
	第25-30回	本研究の計画書の作成：【担当：鈴木、金盛】 以上の手順から最終の本研究の計画書の作成・完成させる。		25-30回	本研究の計画書の作成：【担当：鈴木、金盛】 以上の手順から最終の本研究の計画書の作成・完成させる。
授業方法の特徴	受講生と教員との継続的な対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。金盛が文献クリティックや予備的演習を主に担当し、鈴木が研究の方法や計画に関するディスカッションを実施する。 成人看護学特別演習との合同授業を、5回以上開催する。どの授業を合同とするかは適宜指示する。		授業方法の特徴	学生と教員との継続的な対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。	
テキスト	なし		テキスト	なし	
参考書・参考資	指導教員が適宜指示する		参考書・参考資	指導教員が適宜指示する	

料等		料等	
成績評価の方法と採点基準	<p>受講態度（講義への参加、プレゼンテーションなど）（30%）、小テスト（30%）、討議および課題レポート（40%）を総合評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>	成績評価の方法と採点基準	<p>授業への自主的な取り組み、討論内容、研究計画の内容によって評価し、60点以上の場合合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）授業への自主的な取り組み、討論内容、研究計画の内容によって評価する。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>
その他	特になし	その他	特になし

リプロダクティブヘルス看護学特講

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】			研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】		
授業科目名 (英文名)	リプロダクティブヘルス看護学特講 (Special Seminar in Reproductive Health Nursing)					授業科目名 (英文名)	リプロダクティブヘルス看護学特講 (Special Seminar in Reproductive Health Nursing)				
担当教員	○武田 江里子、安田 孝子					担当教員	○安田 孝子、武田 江里子				
講義回数	15回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	15回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					単位	2				
開講期	通年	形態	講義			開講期	通年	形態	講義		
授業の目標及び概要	<p>【目標】女性や家族の性と生殖(リプロダクティブヘルス)に関する様々な健康課題をマクロレベル、ミクロレベルから捉え、対象の生活をより豊かにするためのケアに繋げる研究課題に取り組む基礎的能力を養う。</p> <p>【概要】成育看護学領域の中のリプロダクティブヘルス/ライツに関連する身体的・心理的・社会的問題および課題について、学術的・学際的視点から理解を深めるため、関連分野の国内外の研究論文や書籍等を講読し、自らの研究課題を絞り込んでいく。</p>					授業の目標及び概要	<p>女性や家族の性と生殖に関する様々な健康課題をマクロレベル、ミクロレベルから捉え、対象の生活をより豊かにするためのケアに繋げる研究について検討する。</p>				
授業の内容	第1回	リプロダクティブヘルス/ライツ (1):【担当:武田・安田】 カイロ会議前後での世界及び日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツについて、学生がプレゼンテーションを行う。教員は講義の中で補足・解説しながらリプロダクティブヘルス/ライツの歴史的背景を踏まえてディスカッションを深める。				授業の内容	第1回	リプロダクティブヘルス・ライツ (1):【担当:安田・武田】 カイロ会議前後での世界及び日本におけるリプロダクティブヘルス・ライツ			

第2回	リプロダクティブヘルス/ライツ (2):【担当:武田・安田】 SDGs におけるリプロダクティブヘルス/ライツについて、学生がプレゼンテーションを行う。教員は講義の中で補足・解説しながら国際的背景を踏まえてディスカッションを深める。	第2回	リプロダクティブヘルス・ライツに関する歴史的な視点からの文献検討
第3回	リプロダクティブヘルス/ライツ (3):【担当:武田・安田】 プレコンセプションケアにおけるリプロダクティブヘルス/ライツについて、学生がプレゼンテーションをし、教員は講義の中で補足・解説しながらディスカッションを深める。	第3回	リプロダクティブヘルス・ライツ (2):【担当:安田・武田】 SDGs におけるリプロダクティブヘルス
第4回	リプロダクティブヘルス/ライツに関するプレコンセプションケアの視点からの文献レビュー【担当:武田・安田】 学生による文献レビューを中心にディスカッションを行う。	第4回	リプロダクティブヘルス・ライツに関する SDGs の視点からの文献検討
第5回	リプロダクティブヘルス/ライツ (4):【担当:安田・武田】 様々な性(生物学的・ジェンダー・性自認・性指向)、LGBTQ からみたリプロダクティブヘルス/ライツについて、学生がプレゼンテーションをし、教員は講義の中で補足・解説しながらディスカッションを深める。	第5回	リプロダクティブヘルス・ライツ (3):【担当:安田・武田】 様々な性(生物学的・ジェンダー・性自認・性指向) からみたリプロダクティブヘルス
第6回	リプロダクティブヘルス/ライツに関する様々な性の視点からの文献レビュー【担当:安田・武田】 学生による文献レビューを中心にディスカッションを行う。	第6回	リプロダクティブヘルス・ライツに関する LGBTQ の視点からの文献検討
第7回	リプロダクティブヘルス/ライツ (5):【担当:武田・安田】 性暴力におけるリプロダクティブヘルス/ライツについて、学生がプレゼンテーションをし、教員は講義の中で補足・解説しながらディスカッションを深める。	第7回	リプロダクティブヘルス・ライツ (4):【担当:安田・武田】 性暴力におけるリプロダクティブヘルス・ライツ
第8回	リプロダクティブヘルス/ライツに関する性暴力の視点からの文献レビ	第8回	リプロダクティブヘルス・ライツに関する性暴力の視点からの文献検

回	<p>ユー 【担当：武田・安田】</p> <p>学生による文献レビューを中心にディスカッションを行う。</p>	回	討
第9回	<p>リプロダクティブヘルス/ライツ（6）：【担当：安田・武田】</p> <p>性感染症におけるリプロダクティブヘルス/ライツについて、学生がプレゼンテーションをし、教員は講義の中で補足・解説しながらディスカッションを深める。</p>	第9回	<p>リプロダクティブヘルス・ライツ（5）：【担当：安田・武田】</p> <p>性感染症におけるリプロダクティブヘルス・ライツ</p>
第10回	<p>リプロダクティブヘルス/ライツに関する性感染症の視点からの文献レビュー 【担当：安田・武田】</p> <p>学生による文献レビューを中心にディスカッションを行う。</p>	第10回	<p>リプロダクティブヘルス・ライツに関する性感染症の視点からの文献検討</p>
第11回	<p>リプロダクティブヘルス/ライツ（7）：【担当：安田・武田】</p> <p>不妊・不育、家族、生命倫理におけるリプロダクティブヘルス/ライツについて、学生がプレゼンテーションをし、教員は講義の中で補足・解説しながらディスカッションを深める。</p>	第11回	<p>リプロダクティブヘルス・ライツ（6）：【担当：安田・武田】</p> <p>不妊・不育におけるリプロダクティブヘルス・ライツ</p>
第12回	<p>リプロダクティブヘルス/ライツに関する不妊・不育、家族、生命倫理の視点からの文献レビュー 【担当：安田・武田】</p> <p>学生による文献レビューを中心にディスカッションを行う。</p>	第12回	<p>リプロダクティブヘルス・ライツに関する不妊の視点からの文献検討</p>
第13回	<p>リプロダクティブヘルス/ライツ（8）【担当：武田・安田】</p> <p>周産期におけるリプロダクティブヘルス/ライツについて、学生がプレゼンテーションをし、教員は講義の中で補足・解説しながらディスカッションを深める。</p>	第13回	<p>リプロダクティブヘルス・ライツ（7）【担当：安田・武田】</p> <p>周産期におけるリプロダクティブヘルス・ライツ</p>
第14回	<p>リプロダクティブヘルス/ライツに関する周産期の視点からの文献レビュー 【担当：武田・安田】</p> <p>学生による文献レビューを中心にディスカッションを行う。</p>	第14回	<p>リプロダクティブヘルス・ライツに関する周産期の視点からの文献検討</p>

第15回	<p>学生の研究テーマに関するプレゼンテーション 【担当：武田・安田】</p> <p>教員と学生はプレゼンテーションをもとにディスカッションを行う。</p>	第15回	<p>研究テーマに関するプレゼンテーション 【担当：安田・武田】</p>
授業方法の特徴	<p>教員による講義、学生主体の文献レビューおよびプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。文献レビューでは必ず英語論文も含めて事前にレポートを作成し、その上でディスカッションを行う。</p> <p>第1～4回、7～8回、13～14回では、武田が各テーマに関する知識の補足と新たな課題の発掘を補助し、安田がレポートやプレゼンテーション力について助言・指導する。第5～6回、9～12回では、安田が各テーマに関する知識の補足と新たな課題の発掘を補助し、武田がレポートやプレゼンテーション力について助言・指導する。</p>	授業方法の特徴	<p>教員による講義、学生主体の文献検討およびプレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。</p>
テキスト	<p>教員が適宜指定または準備する。</p>	テキスト	<p>教員が適宜指定または準備する。</p>
参考書・参考資料等	<p>教員が適宜指定する。</p>	参考書・参考資料等	<p>教員が適宜指定する。</p>
成績評価の方法と採点基準	<p>担当テーマのプレゼンテーションの内容（30%）、討論での発言状況（30%）、課題レポート（40%）によって総合的に成績評価を行う。</p> <p>評価点が60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>	成績評価の方法と採点基準	<p>プレゼンテーションの内容、授業への参加・発言状況によって評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>
その他	<p>特になし</p>	その他	<p>特になし</p>

リプロダクティブヘルス看護学特別演習

新					旧						
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】			
授業科目名 (英文名)	リプロダクティブヘルス看護学特別演習 (Special Practice in Reproductive Health Nursing)				授業科目名 (英文名)	リプロダクティブヘルス看護学特別演習 (Special Practice in Reproductive Health Nursing)					
担当教員	○武田 江里子、安田 孝子				担当教員	○安田 孝子、武田 江里子					
講義回数	30回	必修	選択	標準	1年	講義回数	30回	必修	選択	標準	1年
単位	2	選択の別		履修学 年		単位	2	選択の別		履修学 年	
開講期	通年	形態	演習		開講期	通年	形態	演習			
授業の目標及び 概要	<p>【目標】新たな理論の構築やオリジナリティのあるケア開発に発展させるための研究力を身につける。</p> <p>【概要】成育看護学領域の中のリプロダクティブヘルス看護学で行われている国内外の研究、および関連する看護哲学、看護（助産）理論、心理学、社会学等の研究について多角的な視点から文献クリティークを行い、研究構想から実現可能な研究計画の立案に関連することを段階的に学修する。</p>				授業の目標及び 概要	<p>リプロダクティブヘルス看護学領域で行われている研究、および関連する看護哲学、看護（助産）理論、心理学、社会学等の研究について多角的な視点から文献クリティークを行い、新たな理論の構築やオリジナリティのあるケア開発に発展させるための研究力を身につける。</p>					
授業 の内 容	第1 回～ 10回	文献クリティーク：【担当：武田・安田】 リプロダクティブヘルス看護学、および関連する分野の博士論文相当の国内外の文献クリティークを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。				授業 の内 容	1～ 10	文献クリティーク：【担当：安田・武田】 リプロダクティブヘルス看護学領域、および関連する分野の博士論文相当の文献クリティークを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。			

第11 回～ 20回	研究指導演習：【担当：武田・安田】 分析方法についてのプレゼンテーションを行う。博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。	第21 回～ 30回	研究計画作成に向けた演習：【担当：武田・安田】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画の概要を作成する。	11～ 20	研究指導演習：【担当：安田・武田】 分析方法についてのプレゼンテーションを行う。博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。	21～ 30	研究計画作成に向けた演習：【担当：安田・武田】 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画の概要を作成する。
授業方法の特徴	<p>学生が主体的に行うゼミ形式とする。文献クリティークでは、指定の文献で用いられている研究方法および統計解析についても説明できるよう準備する必要がある。学生と教員との継続的な対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。</p> <p>武田が主に進行し、安田はディスカッションの中で助言し、内容を深めていく。</p> <p>小児看護学特別演習との合同授業を、第1回～10回の中で2回以上、第11回～20回の中で2回以上、第21回～30回で1回以上、計5回以上開催する。どの授業を合同とするかは適宜指示する。</p>		授業方法の特徴	<p>学生が主体的に行うゼミ形式とする。文献クリティークでは、指定の文献で用いられている研究方法および統計解析についても説明できるよう準備する必要がある。学生と教員との継続的な対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。</p>			
テキスト	なし		テキスト	なし			
参考書・参考資料等	教員が適宜指示する		参考書・参考資料等	教員が適宜指示する			
成績評価の方法と	課題プレゼンテーションの内容（30%）、討論内容（20%）、研究計画立案（50%）によって総合的に成績評価を行う。評価点が60点以上の場		成績評価の方法と	授業への自主的な取り組み、討論内容、研究計画の内容によって評価し、60点以上の場合合格とする。			

採点基準	合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）	採点基準	授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）
その他	特になし	その他	特になし

小児看護学特講

新					旧						
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】			
授業科目名 (英文名)	小児看護学特講 (Special Seminar in Child Nursing)				授業科目名 (英文名)	小児看護学特講 (Special Seminar in Child Nursing)					
担当教員	○坪見利香、宮城島恭子				担当教員	○坪見利香、宮城島恭子					
講義回数	15回	必修	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	15回	必修	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2	選択の別				単位	2	選択の別			
開講期	通年	形態	講義		開講期	通年	形態	講義			
授業の目標及び概要	<p>【目標】子どもの健康問題を多角的に捉え、子どもと家族の特性を考慮した健康の維持・増進に関する研究課題に取り組む基礎的能力を養う。</p> <p>【概要】あらゆる健康レベルの子どもと家族がおかれている課題解決に向けて、健康問題や成長・発達を支援するための看護について学術的・学際的視点から修得する。子どもおよび家族の生活支援にかかわる研究課題を探究するために、国内外における小児看護学および関連分野の研究論文や、書籍などの講読をおこなう。</p>				授業の目標及び概要	<p>【目標】子どもの健康問題を多角的に捉え、子どもと家族の特性を考慮した健康の維持・増進に関する研究課題に取り組む基礎的能力を養う。</p> <p>【概要】あらゆる健康レベルの子どもと家族がおかれている課題解決に向けて、健康問題や成長・発達を支援するための看護について学術的・学際的視点から教授する。子どもおよび家族の生活支援にかかわる研究課題を探究するために、小児看護学および関連分野の研究論文や、書籍などの講読をおこなう。</p>					
授業の内容	第1回	ガイダンス：教員のオリエンテーションにより、学生はこの講義の概要を理解し、学修目標を確認する。 子どもの発達と健康問題(1) 新生児～乳児期における子どもの健康レベルと家族が置かれている現状について、国内外の文献レビューをもと				授業の内容	第1回	ガイダンス 文献検討および討議(1) 子どもの健康問題と発達への影響 新生児～乳児(坪見・宮城島)			

		に討議を行う。【担当：坪見・宮城島】							
第2回		子どもの発達と健康問題(2) 幼児期における子どもの健康レベルと家族が置かれている現状について、国内外の文献レビューをもとに討議を行う。【担当：坪見・宮城島】			第2回		文献検討および討議(2) 子どもの健康問題と発達への影響 幼児(坪見・宮城島)		
第3回		子どもの発達と健康問題(3) 学童期における子どもの健康レベルと家族が置かれている現状について、国内外の文献レビューをもとに討議を行う。【担当：坪見・宮城島】			第3回		文献検討および討議(3) 子どもの健康問題と発達への影響 学童(坪見・宮城島)		
第4回		子どもの発達と健康問題(4) 思春期における子どもの健康レベルと家族が置かれている現状について、国内外の文献レビューをもとに討議を行う。【担当：坪見・宮城島】			第4回		文献検討および討議(4) 子どもの健康問題と発達への影響 思春期(坪見・宮城島)		
第5回		小児期の健康問題とAYA世代の支援(家族への支援も含む)について概要を解説し、テーマに関する課題について討議を行う。【担当：宮城島】			第5回		文献検討および討議(5) AYA世代の支援【家族への支援も含む】(宮城島)		
第6回		小児がんなど慢性疾患の子どもライフステージに応じた支援について概要を解説し、テーマに関する課題について討議を行う。【担当：宮城島】			第6回		講義 小児がんの子どもライフステージに応じた支援(宮城島)		
第7回		小児がんなど慢性疾患の子どもライフステージに応じた家族への支援について概要を解説し、テーマに関する課題について討議を行う。【担当：宮城島】			第7回		講義 小児がんの子どもライフステージに応じた家族への支援(宮城島)		
第8回		研究課題に関連した文献レビューおよび、研究テーマについてプレゼンテーションを行い、テーマに関する課題について討議を行う。【担当：坪見・宮城島】			第8回		文献検討および討議 研究課題に関連した文献(坪見・宮城島)		
第9回		在宅で生活する子どもと家族を対象にした看護支援について概要を解説し、テーマに関する課題について関連する分野を踏まえた視点で討議			第9回		在宅で生活する子どもと家族を対象にした看護支援について多角的な視点で考える(坪見)		

		する。【担当：坪見】			
	第10回	小児看護学領域における障害理解について概要を解説し、障害児（者）支援のあり方について討議する。【担当：坪見】		第10回	小児看護学領域における障害理解について（坪見）
	第11回	子どもと家族が生活をする上で感じるバリアについて文献および学生の生活フィールドをもとに討議する。【担当：坪見】		第11回	子どもと家族が生活をする上で感じるバリアについて学生の生活フィールドから考える（坪見）
	第12回			第12回	
	第13回	取り組むべき研究課題について小児看護学周辺の分野の文献を考慮しつつ多角的な視点で考える。【担当：坪見・宮城島】		第13回	取り組むべき研究課題について小児看護学周辺の分野など多角的な視点で考える（坪見・宮城島）
	第14回			第14回	
	第15回	これまでの学修成果をふまえて、取り組むべき研究課題の解決に向けた討議を行う。【担当：坪見・宮城島】		第15回	講義のまとめ 研究課題の解決に向けて学修成果をまとめる（坪見・宮城島）
授業方法の特徴	第1～第4回は、各発達段階の子どもの健康レベルと家族が置かれている現状を国内外の文献から分析し、発表する。坪見は、学生の学修が促進されるよう各テーマに関する知識の補足とプレゼンテーションについて指導・助言する。宮城島は、健康問題をもつ子どもと家族の発達過程を見据えた支援について補足・助言する。教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでの討議を通じて自己の研究課題について能動的に取り組めるようにする。		授業方法の特徴	教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて自己の研究課題について能動的に取り組めるようにする。	
テキスト	他各指導教員が適宜準備する。		テキスト	他各指導教員が適宜準備する。	
参考書・参考資	各指導教員が適宜準備する。		参考書・参考資	各指導教員が適宜準備する。	

料等		料等	
成績評価の方法と採点基準	<p>プレゼンテーション（30%）、討議・質疑応答（30%）、課題レポート（40%）によって評価する。評価点が60点以上を合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>	成績評価の方法と採点基準	<p>プレゼンテーションの内容、授業への参加・発言状況によって評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>
その他	特になし	その他	特になし

小児看護学特別演習

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】			研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】		
授業科目名 (英文名)	小児看護学特別演習 (Special Practice in Child Nursing)					授業科目名 (英文名)	小児看護学特別演習 (Special Practice in Child Nursing)				
担当教員	○坪見利香、宮城島恭子					担当教員	○坪見利香、宮城島恭子				
講義回数	30回	必修	選択	標準	1年	講義回数	30回	必修	選択	標準	1年
単位	2	選択の別		履修学 年		単位	2	選択の別		履修学 年	
開講期	通年	形態	演習			開講期	通年	形態	演習		
授業の目標及び概要	<p>【目標】演習により、多様な研究テーマやトピックに関する文献講読や発表討論を通じて、小児看護学分野における新たな価値の創出や、発展に寄与できる研究の計画立案を目指す。</p> <p>【概要】博士後期課程での研究を遂行するために、研究の構想から実現可能な研究計画の立案に関連することを段階的に学習する。</p>					<p>【目標】演習により、多様な研究テーマやトピックに関する文献講読や発表討論を通じて、小児看護学分野における新たな価値の創出や、発展に寄与できる研究の計画立案を目指す。</p> <p>【概要】博士後期課程での研究を遂行するために、研究の構想から実現可能な研究計画の立案に関連することを段階的に学習する。</p>					
授業の内容	第1～10回	文献クリティーク・レビュー：【担当：坪見、宮城島】 小児看護学分野および課題に関連する他分野の文献講読や、討論を通じてキーワードに関する概念分析を行い、課題設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。				授業の内容	1～10回	文献クリティーク：【担当：坪見、宮城島】 小児看護学分野および課題に関連する他分野の文献講読や、討論を通じてキーワードに関する概念分析を行い、課題設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。			
	第11～15回	研究指導演習：【担当：坪見、宮城島】 学部学生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究を遂行するための教授方法について理解を深め、研究における指導的役割を理解する					11～15回	研究指導演習：【担当：坪見、宮城島】 学部学生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究を遂行するための教授方法を理解する。			

		る。			
	第16回～30回	研究計画作成：【担当：坪見、宮城島】 特講での学修・既得の知識を活用し、自らの研究課題を設定し、研究概念枠組みや研究方法について検討する。研究の新規性や独創性を含めた発表と討議を通じて自らの研究上の課題・改善点を明確にして研究計画立案の完成を目指す。		16回～30回	研究計画作成：【担当：坪見、宮城島】 特講での学修・既得の知識を活用し、自らの研究課題を設定し、研究概念枠組みや研究方法について検討する。研究の新規性や独創性を含めた発表と討議を通じて自らの研究上の課題・改善点を明確にして研究計画立案の完成を目指す。
授業方法の特徴	<p>教員との継続的な指導をうけるとともに、他の学生との対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。</p> <p>坪見が主に進行し、宮城島はディスカッションの中で助言し、内容を深めていく。</p> <p>リプロダクティブヘルス看護学特別演習との合同授業を、第1～10回のうち2回以上、第11回～15回のうち2回以上、第16回～30回のうち1回以上の計5回以上開催する。どの授業を合同とするかは適宜指示する。</p>		授業方法の特徴	<p>指導教員および副指導教員との継続的な指導を受けるとともに、他の学生との対話・学生の自発的な取り組みを重視し、学修が促進されるようにする。</p>	
テキスト	なし		テキスト	なし	
参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する		参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する	
成績評価の方法と採点基準	<p>授業科目におけるプレゼンテーションの内容(30%)、討議内容(20%)、課題レポートおよび研究計画立案(50%)によって総合的に成績評価を行う。評価点が60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、</p>		成績評価の方法と採点基準	<p>授業への自主的な取り組み、討論内容、研究計画の内容によって評価し、60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、</p>	

	不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、 可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）		不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、 可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）
その他	特になし	その他	特になし

地域看護学特講

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】			研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】		
授業科目名 (英文名)	地域看護学特講 (Special Seminar in Community Health Nursing)					授業科目名 (英文名)	地域看護学特講 (Special Seminar in Community Health Nursing)				
担当教員	○渡井 いずみ, 山本 真実					担当教員	○渡井 いずみ, 山本 真実, 島本 靖子				
講義回数	15回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	15回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					単位	2				
開講期	通年	形態	講義			開講期	通年	形態	講義		
授業の目標及び概要	地域、在宅、産業、学校など多様なコミュニティにおける看護である「地域看護学」に関連する理論やモデル、それらを活用した看護実践について理解を深め、地域看護学の発展に必要な能力を培う。					授業の目標及び概要	地域、在宅、産業、学校など多様なコミュニティにおける看護である「地域看護学」に関連する理論やモデル、それらを活用した看護実践について理解を深め、地域看護学の発展に必要な能力を培う。				
授業の内容	第1回	保健行動・行動科学における理論・モデル ① 【担当：渡井】 保健行動・行動科学理論の変遷とパラダイムについて教授する。				授業の内容	第1回	保健行動・行動科学における理論・モデル ① 【担当：渡井】			
	第2回	保健行動・行動科学における理論・モデル ② 【担当：渡井】 個人レベルの理論・モデルについて学生が抄読・プレゼンテーションし、教員の解説や教員を含めたディスカッションにより理解を深める。					第2回	保健行動・行動科学における理論・モデル ② 【担当：渡井】			
	第3回	保健行動・行動科学における理論・モデル ③ 【担当：渡井】 個人レベルの理論・モデルについて学生が抄読・プレゼンテーションし、教員の解説や教員を含めたディスカッションにより理解を深める。					第3回	保健行動・行動科学における理論・モデル ③ 【担当：渡井】			

第4回	保健行動・行動科学における理論・モデル ④ 【担当：渡井】 事前に個人レベルの理論・モデルを用いた国内の研究論文を学生・教員が準備し、その論文を題材として、地域看護実践への応用について学生・教員とでディスカッションを行う。				第4回	保健行動・行動科学における理論・モデル ④ 【担当：渡井】			
第5回	保健行動・行動科学における理論・モデル ⑤ 【担当：渡井】 個人レベルの理論・モデルについて学生が抄読・プレゼンテーションし、教員の解説や教員を含めたディスカッションにより理解を深める。				第5回	保健行動・行動科学における理論・モデル ⑤ 【担当：渡井】			
第6回	保健行動・行動科学における理論・モデル ⑥ 【担当：渡井】 集団レベルの理論・モデルについて学生が抄読・プレゼンテーションし、教員の解説や教員を含めたディスカッションにより理解を深める。				第6回	コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ① 【担当：山本】			
第7回	保健行動・行動科学における理論・モデル ⑦ 【担当：渡井】 事前に個人レベル、集団レベルの保健行動理論・モデルを用いた国内の研究論文を学生・教員が準備し、その論文を題材として、地域看護実践への応用について学生・教員とでディスカッションを行う。				第7回	コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ② 【担当：山本】			
第8回	コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ① 【担当：山本】 コミュニケーション・対話に関する理論について教授する。				第8回	コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ③ 【担当：山本】			
第9回	コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ② 【担当：山本】 コミュニケーション・対話に関する理論について教授する。				第9回	コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ④ 【担当：山本】			
第10回	コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ③ 【担当：山本】 コミュニケーション・対話に関する理論を学生が抄読・プレゼンテーシ				第10回	コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ⑤ 【担当：山本】			

	<p>ョンし、教員の解説や教員を含めたディスカッションにより理解を深める。</p>		
第11回	<p>コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ④【担当：山本】</p> <p>コミュニケーション・対話に関する理論を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員の解説や教員を含めたディスカッションにより理解を深める。</p>	第11回	看護ケアから保健計画・政策につなげる理論・モデル①【担当：鳥本】
第12回	<p>コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ⑤【担当：山本】</p> <p>コミュニケーション・対話に関する理論を学生が抄読・プレゼンテーションし、教員の解説や教員を含めたディスカッションにより理解を深める。</p>	第12回	看護ケアから保健計画・政策につなげる理論・モデル②【担当：鳥本】
第13回	<p>コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ⑥【担当：山本】</p> <p>第9回～第12回で取り上げた理論を用いて、学生が地域看護学領域の事象を説明し、地域看護学に求められる知とそれを探求する方法について教員を含めてディスカッションを行う。</p>	第13回	看護ケアから保健計画・政策につなげる理論・モデル③【担当：鳥本】
第14回	<p>コミュニケーション・対話に関する理論と地域看護学への応用 ⑦【担当：山本】</p> <p>第9回～第12回で取り上げた理論を用いて、学生が地域看護学領域の事象を説明し、地域看護学に求められる知とそれを探求する方法について教員を含めてディスカッションを行う。</p>	第14回	看護ケアから保健計画・政策につなげる理論・モデル④【担当：鳥本】
第15回	地域看護実践における理論・モデルの活用について まとめ 【担当：渡	第15回	看護ケアから保健計画・政策につなげる理論・モデル⑤【担当：鳥本】

回	井・山本】	回	
授業方法の特徴	<p>第1～7回はテキスト1、第8～14回はテキスト2、3を用いる。地域看護学に関連する様々な理論について、授業ごとにテキスト内の理論について、学生がプレゼンテーションをする。教員、学生間とで理論の意味や日本での活用状況、看護実践への応用等についてディスカッションを重ねる。最終回第15回は、担当教員2名と履修者全員により、これまで学んだ理論を整理し、地域看護学の発展にどう活かすかをディスカッションし、最終レポート課題を提示する。</p>	授業方法の特徴	<p>学生による課題プレゼンテーションを軸に、日本での活用状況や看護実践への応用等について学生間や教員とディスカッションを行う。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> • Karen Glanz et al, (Eds) : Health Behavior - theory, research, and practice- 5th, JOSSEY -BASS • Sheila McNamee & Kenneth J. Gergen(Eds): Therapy as Social Construction, SAGE Publication. • Gregory Bateson: Steps to an Ecology of Mind, The University of Chicago press. 	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> • Karen Glanz et al, (Eds) : Health Behavior - theory, research, and practice- 5th, JOSSEY -BASS • Sheila McNamee & Kenneth J. Gergen(Eds): Therapy as Social Construction, SAGE Publication. • Gregory Bateson: Steps to an Ecology of Mind, The University of Chicago press. • A Preamble to Shaping Health Policy through Nursing Research, Springer Pub Co.
参考書・参考資料等	各指導教員が適宜指示する。	参考書・参考資料等	各指導教員が適宜指示する。
成績評価の方法と	授業準備(30%)、プレゼンテーションの内容(30%)、提出物の状況(30%)、授業態度(10%)によって総合的に評価する。	成績評価の方法と	プレゼンテーションの内容、授業への参加・発言状況によって評価する。評価点が60点以上の場合合格とする。

採点基準	授業科目の成績評価は、秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満とし、60 点未満は不可とする（100 点満点評価）。なお、出席率 60%未満は評価対象としない。	採点基準	授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）
その他	特になし	その他	特になし

地域看護学特別演習

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】			研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】		
授業科目名 (英文名)	地域看護学特別演習 (Special Practice in Community Health Nursing)					授業科目名 (英文名)	地域看護学特別演習 (Special Practice in Community Health Nursing)				
担当教員	○渡井 いずみ, 山本 真実					担当教員	○渡井 いずみ, 山本 真実, 島本 靖子				
講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					単位	2				
開講期	通年	形態	演習			開講期	通年	形態	演習		
授業の目標及 び 概要	地域看護学の教育者・研究者としての基盤能力の開発・養成を目的とする。地域看護学における多様な研究課題や研究手法の理解を深め、自立した研究者として必要な研究技法の修得、学際的な視野の拡大、ディスカッション能力等の資質向上を図る。看護学、地域看護学における自身の専門性を持ち、研究指導能力を培う。					授業の目標及 び 概要	地域看護学の教育者・研究者としての基盤能力の開発・養成を目的とする。地域看護学における多様な研究課題や研究手法の理解を深め、自立した研究者として必要な研究技法の修得、学際的な視野の拡大、ディスカッション能力等の資質向上を図る。看護学、地域看護学における自身の専門性を持ち、研究指導能力を培う。				
授業の内容	下記をらせん状に繰り返しながら、年30回実施する。 【Journal 紹介とクリティーク】10回 地域看護学領域における海外論文の紹介とクリティークを輪番で担当する。多様なテーマの論文の精読とクリティークを重ねることで、研究テーマの設定や研究方法を理解し、自らの研究への活用について探究する。 【研究遂行能力の向上に向けた演習】10回					授業の内容	下記をらせん状に繰り返しながら、年30回実施する。 【Journal 紹介とクリティーク】10回 地域看護学領域における海外論文の紹介とクリティークを輪番で担当する。多様なテーマの論文の精読とクリティークを重ねることで、研究テーマの設定や研究方法を理解し、自らの研究への活用について探究する。 【研究遂行能力の向上に向けた演習】10回				

	自身の研究計画、研究の進捗状況について、文献検討や学会参加等から得た知識を整理して研究課題に至る論理的思考の構築、研究方法の選択、データ分析の手法の修得、得られた結果から考察を導く、学会発表の予行等、定期的にプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねる。他の大学院生や教員による研究課題や研究手法を共有することで、多様な研究課題や研究手法についての理解を深める。 【他大学や他の研究室との交流】6回 不定期に、他大学の地域看護学研究室との合同研究会等、議論や交流の場を設ける。 【研究指導演習】4回 学部生および博士前期課程学生に対する研究指導への参画を通じて、研究プロセスの理解を深め、研究指導能力の向上を図る。		自身の研究計画、研究の進捗状況について、文献検討や学会参加等から得た知識を整理して研究課題に至る論理的思考の構築、研究方法の選択、データ分析の手法の修得、得られた結果から考察を導く、学会発表の予行等、定期的にプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねる。他の大学院生や教員による研究課題や研究手法を共有することで、多様な研究課題や研究手法についての理解を深める。 【他大学や他の研究室との交流】6回 不定期に、他大学の地域看護学研究室との合同研究会等、議論や交流の場を設ける。 【研究指導演習】4回 学部生および博士前期課程学生に対する研究指導への参画を通じて、研究プロセスの理解を深め、研究指導能力の向上を図る。
授業方法の特徴	地域看護学講座の大学院生および教員によるゼミ形式で行う。また、学生の自発的な学修スタイルを重視する。 渡井が主に進行し、山本はディスカッションの中で助言し、内容を深めていく。 精神看護学特別演習との合同授業を、5回以上開催する。どの授業を合同とするかは適宜指示する。	授業方法の特徴	地域看護学講座の大学院生および教員によるゼミ形式で行う。また、学生の自発的な学修スタイルを重視する。
テキスト	なし	テキスト	なし
参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する	参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する

成績評価の方法と採点基準	<p>文献検討の量と質(40%)、プレゼンテーションやディスカッションの内容(30%)、研究指導演習への取り組む姿勢と内容(30%)で評価する。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満とし、60点未満は不可とする(100点満点評価)。なお、出席率60%未満は評価対象としない。</p>	成績評価の方法と採点基準	<p>文献検討の量と質、プレゼンテーションやディスカッションへの取り組む姿勢と内容から総合的に評価し、60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満(100点満点評価)</p>
その他	特になし	その他	特になし

精神看護学特講

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】			研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】		
授業科目名 (英文名)	精神看護学特講 (Special Seminar in Psychiatric-Mental Health Nursing)					授業科目名 (英文名)	精神看護学特講 (Special Seminar in Psychiatric-Mental Health Nursing)				
担当教員	木戸芳史					担当教員	木戸芳史				
講義回数	15回	必修	選択	標準	1年	講義回数	15回	必修	選択	標準	1年
単位	2	選択の別		履修学 年		単位	2	選択の別		履修学 年	
開講期	通年	形態	講義			開講期	通年	形態	講義		
授業の目標及び概要	<p>本科目は、精神看護学分野を牽引する研究者として、自律して研究活動を行うために必要な高度の研究能力および基礎となる豊かな知識を獲得し、精神保健医療福祉に関するテーマを探究することを目標とする。</p> <p>具体的内容は各自のテーマに応じて異なるが、精神の健康問題とその関連要因に関する理論や、これまでの研究動向および実践活動について幅広く情報を収集し、各自のテーマに沿って整理する。授業および自己学習を通じて理解を深め、各自のテーマを設定して系統的なナラティブレビューを作成し、教員からのフィードバックを受ける。</p>					<p>本科目は、精神看護学分野を牽引する研究者として、自律して研究活動を行うために必要な高度の研究能力および基礎となる豊かな知識を獲得し、精神保健医療福祉に関するテーマを探究することを目標とする。</p> <p>具体的内容は各自のテーマに応じて異なるが、精神の健康問題とその関連要因に関する理論や、これまでの研究動向および実践活動について幅広く情報を収集し、各自のテーマに沿って整理する。授業および自己学習を通じて理解を深め、各自のテーマを設定して系統的なナラティブレビューを作成し、教員からのフィードバックを受ける。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文献検討、講義、自己学習を通じて、各自のテーマを設定することができる。 各自の研究テーマに沿って、これまでの研究動向、現状と課題、関 					<ul style="list-style-type: none"> 文献検討、講義、自己学習を通じて、各自のテーマを設定することができる。 各自の研究テーマに沿って、これまでの研究動向、現状と課題、関 					

		連する理論等を整理することができる。				連する理論等を整理することができる。	
		・ 系統的なナラティブレビューを作成することができる。				・ 系統的なナラティブレビューを作成することができる。	
授業の内容	第1回	定性的システマティックレビューの理解：【担当：木戸】 ・メタ分析を伴わないシステマティックレビュー（定性的システマティックレビュー）の目的と概要について学習する。		授業の内容	第1回	・ 系統的なナラティブレビューの理解と方法 ・ システマティックレビューとメタ分析の理解	
	第2回	定量的システマティックレビュー（メタ分析）の理解：【担当：木戸】 ・メタ分析を含むシステマティックレビュー（定量的システマティックレビュー）の目的と概要について学習する。 ・ PRISMA 声明の内容について学習する。			第2回		
	第3回	(以降は基本的に定性的システマティックレビューを前提に行う) レビュープロトコルの作成（1）：【担当：木戸】 ・リサーチクエスチョン、レビューの目的、方法について検討する。			第3回～第8回	・ 研究テーマに関する文献を系統的に収集と、内容の理解。 ・ 研究テーマに関するこれまでの研究動向、現状と課題、関連する理論等の整理。 ・ 研究課題の設定についてのディスカッション。	
	第4回	レビュープロトコルの作成（2）：【担当：木戸】 ・ 選択基準と除外基準、文献の収集手順と取捨選択のプロセスについて検討する。 ・ プロトコルレジストリ（PROSPERO）について学習する。					
	第5回	一次スクリーニング（1）：【担当：木戸】 ・ 一次スクリーニングの方法を学習する。 ・ 教員を含めたメンバーが独立して一次スクリーニングを行う。					
	第6回	一次スクリーニング（2）：【担当：木戸】 ・ 教員を含めたメンバーが独立して一次スクリーニングを行う。					
	第7回	二次スクリーニング、系統的に収集した文献の質評価（1）：【担当：木戸】					

回	・教員を含めたメンバーが独立して文献を精読し、内容を深く理解し、質の評価を行う。		
第8回	二次スクリーニング、系統的に収集した文献の質評価(2)：【担当：木戸】 ・教員を含めたメンバーが独立して文献を精読し、内容を深く理解し、質の評価を行う。		
第9回	エビデンス総体の評価(1)：【担当：木戸】 ・エビデンス総体の評価について学習する。 ・研究デザインごとにそれぞれの論文をまとめ直し、改めて非直接性、非一貫性、不精確、出版(報告)バイアスなどを評価する。	第9回 ～ 第13回	・系統的に収集した文献・データの分析。 ・系統的なナラティブレビューの作成。
第10回	エビデンス総体の評価(2)：【担当：木戸】 ・エビデンス総体の評価について学習する。 ・研究デザインごとにそれぞれの論文をまとめ直し、改めて非直接性、非一貫性、不精確、出版(報告)バイアスなどを評価する。		
第11回	定性的システムティックレビューを作成する(1)：【担当：木戸】 ・フローチャート、二次的スクリーニング後の一覧表、評価シートなどを作成する。		
第12回	定性的システムティックレビューを作成する(2)：【担当：木戸】 ・論文執筆を行う。		
第13回	定性的システムティックレビューを作成する(3)：【担当：木戸】 ・論文執筆を行う。		
第14回	まとめ、今後の研究への展望(1)：【担当：木戸】 ・定性的システムティックレビューの作成過程及び成果を踏まえて、履修生が検討している研究計画の見直し及び洗練を行う。		
第14回			第14回

第15回	まとめ、今後の研究への展望(2)：【担当：木戸】 ・定性的システムティックレビューの作成過程及び成果を踏まえて、履修生が検討している研究計画の見直し及び洗練を行う。	回 第15回	・レビューの作成過程及び発表を通じた、研究目的、研究計画の洗練。
授業方法の特徴	具体的な講義の内容と進行は、履修生の関心領域に応じて計画し、担当教員と調整しながら進める。教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。 第3回以降は、その回の内容に関する作業課題をレポートとして作成し、次の回までに提出する。その課題レポートを次回冒頭にプレゼンテーションする。	授業方法の特徴	具体的な講義の内容と進行は、履修生の関心領域に応じて計画し、担当教員と調整しながら進める。教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。 第3回～第8回の課題として、研究テーマに関するこれまでの研究動向、現状と課題、関連する理論等の整理に関するレポートを作成する。レポートはA4サイズ1枚程度にまとめ、授業実施日に指導教員に直接提出する。第9回以降は系統的なナラティブレビューの作成を行い、第14回で発表する。
テキスト	特になし。	テキスト	特になし。
参考書・参考資料等	各指導教員が適宜準備、紹介する。	参考書・参考資料等	各指導教員が適宜準備、紹介する。
成績評価の方法と採点基準	授業への準備及びプレゼンテーション(25%)とディスカッション(25%)、最終的な成果物としての定性的システムティックレビューの内容(50%)により評価を行い、60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。	成績評価の方法と採点基準	授業への準備(25%)とディスカッション(25%)、系統的なナラティブレビューの作成(50%)により評価を行い、60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、

	秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、 可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）		不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、 可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）
その他	特になし	その他	特になし

精神看護学特別演習

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】			研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【成育・広域看護学】		
授業科目名 (英文名)	精神看護学特別演習 (Special Practice in Psychiatric-Mental Health Nursing)					授業科目名 (英文名)	精神看護学特別演習 (Special Practice in Psychiatric-Mental Health Nursing)				
担当教員	木戸芳史					担当教員	木戸芳史				
講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年	講義回数	30回	必修 選択の別	選択	標準 履修学 年	1年
単位	2					単位	2				
開講期	通年	形態	演習			開講期	通年	形態	演習		
授業の目標及び概要	<p>本科目では、精神の健康問題とその関連要因を探索し、問題解決や障がいのある人の生活の質の向上に寄与することのできる研究課題とその研究方法論を探索する。</p> <p>内容は各自の関心領域によって異なるが、研究課題は精神の健康問題とその関連要因に関するものとする。精神障がいのある人およびその家族の生活の質の向上に寄与できる研究課題を見出し、適切な研究計画の立案と倫理的配慮を検討し、研究計画書を作成する。</p>					<p>本科目では、精神の健康問題とその関連要因を探索し、問題解決や障がいのある人の生活の質の向上に寄与することのできる研究課題とその研究方法論を探索する。</p> <p>内容は各自の関心領域によって異なるが、研究課題は精神の健康問題とその関連要因に関するものとする。精神障がいのある人およびその家族の生活の質の向上に寄与できる研究課題を見出し、適切な研究計画の立案と倫理的配慮を検討し、研究計画書を作成する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各自の関心のある現象を概念と関連付け、研究計画を立てるために必要な抽象度を設定し、研究計画及び倫理的配慮を具体的に検討することができる。 					<ul style="list-style-type: none"> 各自の関心のある現象を概念と関連付け、研究計画を立てるために必要な抽象度を設定し、研究計画及び倫理的配慮を具体的に検討することができる。 					
授業の内 回	第1回	文献クリティック及びレビュー 精神看護学領域における博士論文相当の文献クリティック及びレビ				授業の内 回	第1回	文献クリティック及びレビュー：精神看護学領域における博士論文相当の文献クリティック及びレビューを通じ、研究課題の設定・研究方法の			

容	10回	ユーを通じ、研究課題の設定・研究方法の妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。	容	10回	妥当性を検討し、自らの研究計画への活用について探究する。
	第11回～20回	研究計画及び倫理的配慮の検討に関する演習 既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画を作成する。		第11回～20回	研究計画及び倫理的配慮の検討に関する演習：既得の知識・スキルを活用し、自らの研究課題を明確化し、適した研究方法について検討し、研究計画を作成する。
	第21回～30回	研究指導演習 学部生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。		第21回～30回	研究指導演習：学部生や博士前期課程学生への研究指導に参加し、研究実践への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについて理解を深める。
授業方法の特徴	<p>指導教員との面接では、主体的に資料を準備し、面接の目的を自ら設定して臨むことが求められる。また、教員による個別の指導と並行して、院生は研究課題や方法論に関して自領域あるいは他領域の大学院生、共同研究者、研究協力者、外部の有識者とで共有する機会を設定し、その場を主体的に運営することで、各自の研究に対するフィードバックを受ける。これらを通して、研究課題を明らかにするために適切な研究方法論を自ら探究し、教員の支援を受けながら研究計画を立案する。</p> <p>地域看護学特別演習との合同授業を、5回以上開催する。どの授業を合同とするかは適宜指示する。</p>		授業方法の特徴	<p>指導教員との面接では、主体的に資料を準備し、面接の目的を自ら設定して臨むことが求められる。また、教員による個別の指導と並行して、院生は研究課題や方法論に関して自領域あるいは他領域の大学院生、共同研究者、研究協力者、外部の有識者とで共有する機会を設定し、その場を主体的に運営することで、各自の研究に対するフィードバックを受ける。これらを通して、研究課題を明らかにするために適切な研究方法論を自ら探究し、教員の支援を受けながら研究計画を立案する。</p>	
テキスト	特になし。		テキスト	特になし。	
参考書・参考資料等	指導教員が適宜準備、紹介する。		参考書・参考資料等	指導教員が適宜準備、紹介する。	

成績評価の方法と採点基準	<p>演習への準備及びプレゼンテーション（25%）とディスカッション（25%）、研究計画書（50%）により評価を行い、評価点を60点以上の場合を合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>	成績評価の方法と採点基準	<p>演習への準備（25%）とディスカッション（25%）、研究計画書（50%）により評価を行い、評価点を60点以上の場合合格とする。</p> <p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>
その他	特になし	その他	特になし。

特別研究

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【特別研究】			研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程	授業科目 区分	専門科目【特別研究】		
授業科目名 (英文名)	特別研究 (Special Research Work)					授業科目名 (英文名)	特別研究 (Special Research Work)				
担当教員	各研究指導教員 永田年、片山はるみ、脇坂浩、鈴木みずえ、武田江里子、渡井いずみ、 山下寛奈、影山葉子、山本真実 各研究指導補助教員 安田孝子、木戸芳史、坪見利香					担当教員	各研究指導教員 永田年、片山はるみ、佐藤直美、脇坂浩、鈴木みずえ、木戸芳史、坪見 利香、安田孝子、武田江里子、渡井いずみ、山下寛奈、影山葉子、山本 真実、鳥本靖子				
講義回数	90回	必修		標準		講義回数	90回	必修		標準	
単位	6	選択の別	必修	履修学 年	1～3年	単位	6	選択の別	必修	履修学 年	1～3年
開講期	通年	形態	演習			開講期	通年	形態	演習		
授業の目標及び 概要	共通科目および各専門領域の特論・演習で獲得した知識・技術を基盤とし、各専門領域の教員による指導の下、自らの研究課題を抽出し研究活動を展開して課題解決に資する新しい知見を明らかにし、論文を作成して公表できる。					授業の目標及び 概要	共通科目および各専門領域の特論・演習で獲得した知識・技術を基盤とし、各専門領域の教員による指導の下、自らの研究課題を抽出し研究活動を展開して課題解決に資する新しい知見を明らかにし、論文を作成して公表できる。				
授業の内容	第1～30回	自身が着目する課題および周辺領域の文献検討を通して、研究課題を明確にする。解決のための研究手法を文献検討やフィールドワークによって検討し、信頼性・妥当性・実現可能性を吟味し研究計画を立案する。フィールドの準備を行う。				授業の内容	第1～30回	自身が着目する課題および周辺領域の文献検討を通して、研究課題を明確にする。解決のための研究手法を文献検討やフィールドワークによって検討し、信頼性・妥当性・実現可能性を吟味し研究計画を立案する。フィールドの準備を行う。			

		研究計画の中間審査を受審し、指導・助言を得て研究計画を修正し、倫理審査を受ける。			研究計画の中間審査を受審し、指導・助言を得て研究計画を修正し、倫理審査を受ける。
	第31回～60回	データ収集のための手続きを実施し、パイロットスタディによりデータ収集方法、分析方法の洗練化を行い、データ収集を開始する。得られたデータを分析し、結果について検証する。		第31回～60回	データ収集のための手続きを実施し、パイロットスタディによりデータ収集方法、分析方法の洗練化を行い、データ収集を開始する。得られたデータを分析し、結果について検証する。
	第61回～90回	博士論文を作成し投稿する。国内および国際学会で成果発表を行う。博士論文審査会で発表し審査を受ける。		第61回～90回	博士論文を作成し投稿する。国内および国際学会で成果発表を行う。博士論文審査会で発表し審査を受ける。
授業方法の特徴	既修の知識・技術を活用した学生の自主的な取り組みにより研究活動が円滑に効率的に行えるよう指導・助言し、自立的な研究者としての成長を支援する。		授業方法の特徴	既修の知識・技術を活用した学生の自主的な取り組みにより研究活動が円滑に効率的に行えるよう指導・助言し、自立的な研究者としての成長を支援する。	
テキスト	なし		テキスト	なし	
参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する		参考書・参考資料等	指導教員が適宜指示する	
成績評価の方法と採点基準	研究活動への自主的な取り組みの状況、提出された博士論文の内容を評価するとともに、審査委員会による審査を実施する。また、慶北大学校看護大学(韓国)との慶北-浜松合同医学シンポジウムでの英語による研究発表を評価し、看護学分野以外の授業科目の受講及びセミナーの受講については課題レポートを提出させ評価する。その結果をふまえ指導教員が総合的に成績評価を行う。評価点が60点以上の場合合格とする。		成績評価の方法と採点基準	研究活動への自主的な取り組みの状況、提出された博士論文の内容を評価するとともに、審査委員会による審査を実施し、その結果をふまえ指導教員が総合的に成績評価を行う。評価点が60点以上の場合合格とする。	

	<p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>		<p>授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。</p> <p>秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）</p>
その他	<p>慶北大学校看護大学（韓国）との慶北-浜松合同医学シンポジウム（毎年相互に交流）の際に英語での研究発表を行う。</p> <p>光医工共同専攻の科目のうち、提示した科目の中で、指導教員と相談の上、学生の研究内容等を踏まえて適当である科目を受講する。また、光医工共同専攻の科目や産学連携・知財センターが開催している「臨床研究に関する講習会」、「産連知財セミナー」などセミナーの受講についても指導教員と相談の上受講することとし、受講の都度レポートを提出する。</p>	その他	特になし

(是正事項) 医学研究科 看護学専攻 (D)

3. 本専攻では、学際的な研究能力を修得するために、積極的な指導を行うと共に様々な学修機会を提供するとあるが、セミナーや研究発表会等への参加を学生に促すだけでは不十分と考えられるため、以下の点に対応し、適切な指導・学修機会が提供されることを説明すること。

(1) 光医工共同専攻で開講している科目の積極的受講を推奨するなどの記載があるが、具体的な指導方法が不明確なため、明確に説明すること。併せて本専攻以外の科目を履修しながら本専攻として体系的な学修が可能であることを説明すること。

(2) 学生に推奨された科目の受講やセミナー等へ参加しなかった場合も想定されるが、そうした学生に対する個別の指導方法や代替措置等のフォロー体制について説明すること。

(3) 学際的な研究能力の修得と、現象学的研究に精通した副指導教員との研究指導体制の関係や内容が不明確なため、具体的に説明すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、「学際的な研究能力を修得するために積極的な指導を行う」ということについて改めて検討を行った。本博士後期課程が目指す「異分野と融合して看護学分野での新たな価値を創出に貢献する教育・研究を行う」という養成する人材像に照らし、現在求められている人材ニーズに積極的に対応していくという観点から、改善の余地があると考え、専門性が近く関係の深い領域を統合した広い専門領域において、多面的な研究指導が行えるよう領域を再設定することとし、そのことを設置の趣旨を記載した書類にも反映する。

近年の医療において多様な要因が複雑に絡み合う問題に対応するため、幅広い知識を修得するための学際的な研究や部局間の協働の必要性が求められている。この学際的な研究能力の修得については国際性と同じく、一般社団法人日本看護系大学協議会が作成した平成25年度大学における医療人養成推進等委託事業「看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究報告」に「学際的な視点を持って対応する」ことが求められており、「静岡県看護協会からの要望書」(資料A1)に「様々な場で幅広く活躍し…イノベーションを起こすことができること」と記載があり、本学の人材育成の方向性と合致しているものと考えている。

上述の考えにもとづき、1) 看護に関連する健康科学と看護の基盤となる基礎看護学を統合した「基盤看護学領域」、2) 成人期と老年期の看護学を統合することにより幅広い年齢層を対象にした看護について研究を行う「成熟期看護学領域」、3) リプロダクティブヘルス/ライツの視点に基づいた女性の健康問題、成育過程を踏まえた子どもと家族への切れ目のない支援によって次世代を育むことまでを対象とする「成育看護学領域」4) 地域看護学

領域と精神看護学領域を融合し、これらを包含する地域包括ケアシステムの構築を研究対象とする「広域看護学領域」の4つからなる領域を設定する。

領域別設定の理由は以下のとおりである。

1) 基盤看護学領域：ゲノム編集や新型コロナウイルス感染症など今日的な健康科学の課題に関する科学的理解の基に、看護理論・看護倫理を包含した基礎看護学のテーマに取り組むことが必要であり、逆に基礎看護学の視点で健康科学のテーマに取り組むことも必要である。健康科学と基礎看護学の統合によって研究対象をさらに深く理解し、新たな視点を得ることで研究活動の充実を図る。

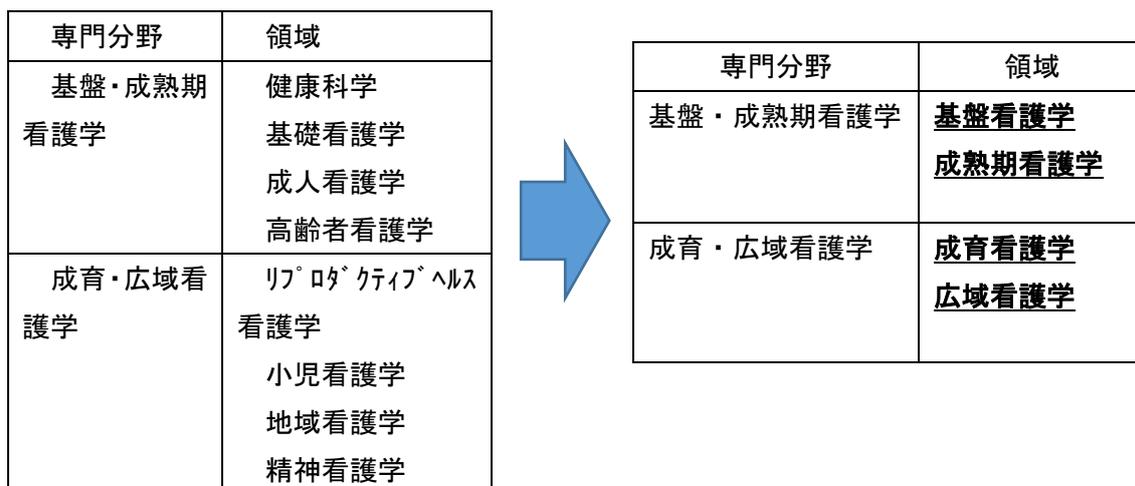
2) 成熟期看護学領域：超高齢化社会を迎え、人の成熟を長期間のライフサイクルでとらえる必要がある。長期間のライフサイクルのなかでは、誰もが病院における急性期医療から地域・在宅での療養や介護が必要となるため、成人期と老年期の看護学を統合することにより、幅広い年齢層を対象にした看護の創造と成熟過程に応じた専門性の深化による研究活動の充実を図る。

3) 成育看護学領域：少子化の進行及び性の多様化といった社会的要因を踏まえ、リプロダクティブヘルス/ライツの視点に基づいた女性の健康問題並びに、成育過程における子どもと家族に対する切れ目のない支援が求められている。そのため、リプロダクティブヘルス看護学と小児看護学を統合し、幅広い視野の涵養と次世代を育むための研究活動の充実を図る。

4) 広域看護学領域：地域・職域・学校などにおいて地域看護学が扱う健康問題には、ストレスや精神疾患に関連するものが多く、また精神看護学領域では精神疾患を抱える者への個別支援に加え、地域包括ケアシステムの視点を持った支援が求められる。そのため、地域看護学領域と精神看護学領域を融合させて広域看護学領域とし、地域包括ケアシステムの構築に寄与する研究活動の充実を図る。

また、特別研究における研究指導だけでなく、専門性の深化と幅広い視野の涵養により、研究活動のより一層の充実を目指し、同一領域内の「特別演習」では、年5回以上合同演習を行うことで、領域内の複数の教員が学生に対して多様な視点から指導する。

このような学修機会を提供し、適切な指導を行うことでディプロマ・ポリシーに掲げた「異分野と連携し、新しい学際的課題の探求にチャレンジできる能力」に適した人材の育成が可能であると考えます。



- (1) 審査意見を踏まえ、光医工共同専攻の科目の履修について、以下の内容により設置の趣旨を記載した書類を修正する。

本博士後期課程での学生の研究課題を多角的な視点から検討していくため、光医工共同専攻で開講している科目「医薬品・医療機器開発概論」・「メディカルデバイスデザイン」（本学で開講、開講時期は後期）、「医工学概論B」（静岡大学で開講 前期）などの専攻外の科目も含め、受講する。受講する科目は、学生の研究計画の内容に合致し、1年次に主指導教員と研究課題を絞り込む際に、研究指導の中で相談し決めていく。なお、主指導教員は基本的には学生が出願時に希望した教員であり、入学後に教授会にて審議し決定する。

主指導教員は受講した科目の担当教員とも連携をとり、学生が様々な分野の教員からの指導を受けられる体制を構築する。

また、産学連携・知財センターが開催している「産学連携・知財セミナー」、「大学院特別講演」、「FD講演会」などのセミナーの受講についても主指導教員と1年次に研究課題を絞り込む際に、研究指導の中で相談した上で受講することとし、受講の都度レポートを提出し、特別研究の中で評価を行うこととする。

以上の取り組みにより、体系的な学修が可能であると考えている。

(資料 A3 履修系統図 参照)

- (2) 審査意見を踏まえ、想定されるセミナーの一覧（昨年度開催分）を示すとともに以下の内容により設置の趣旨を記載した書類にも反映する。

基本的には学生と主指導教員が相談の上受講する科目やセミナーを決定することとしており、可能な限り受講できるよう努めていくが、受講ができなかった場合は、担当教員と連携をとり、オフィスアワーを活用し個別別指導を行うこととする。なお、セミナーはリアルタイムで受講できなかった場合でも、各セミナーにおいて、録画した内容を浜松医科大学の学修支援システムに掲載す

ることで、後日 e-learning で受講ができるような環境を整備する。

受講を案内する学内開催セミナーのリスト(2020年度実績)

セミナーの種類	実施日	セミナーの名称
産学連携、知財関係	2020/6/9	第1回産連・知財セミナー「医療機器の研究開発と知的財産」(web開催)
	2020/12/16	第2回産連・知財セミナー「医療機器開発における知財戦略について」
	2021/3/23	地域金融機関によるセミナー
	2020/11/4～	バイオデザインワークショップ1～4回(web開催)
	2020/9/4	ファルマバレー：バイオデザインセミナー ～世界的に注目されている革新的な医療機器を創出する新手法を体験！～
大学院特別公演	2020/9/9	昆虫の社会進化とエビジェネティクス
	2020/11/13	高速・高精細全脳イメージング法FASTの開発と脳機能解析
	2020/12/4	大脳皮質・皮質下回路機構に迫る多領域間マルチリンク解析
	2020/10/30	ペプチドと分子科学で何が出来るか：創薬や医療におけるモダリティ分子としての可能性
	2021/1/7	看護学・医学のための混合研究法
FD講演会	2020/4/1～8	Zoomを利用した講義等FD
	オンデマンド 浜医学修支援システム	(簡単 講義動画作成1) Power Pointのスライドショーの記録
	オンデマンド 浜医学修支援システム	(簡単 講義動画作成2) OfficeMixの使い方
	2020/4/24	当院における新型コロナウイルス感染症対策～各部門の対応について～
	オンデマンド 浜医学修支援システム	アクティブラーニングの観点からのPBLチューターの役割について
	2020/7/21 2020/7/29	ポートフォリオの運用・作成方法について
	2020/7/6 2020/7/13	ZOOMによるアクティブラーニングの方法 -PBLを例に
	2020/6/26	manabaを活用した今後のWeb講義進め方
	2020/8/31	児童虐待について職員に求められる知識と対応
	2020/11/18	科学的根拠に基づくメンタルヘルス対策とハラスメント対策(安全衛生講演会)
	2020/11/27	コーチング流マネジメント
	2020/12/23	診療看護師(Nurse Practitioner)の目指すものと育成について☑プライマリNPについて
	2020/12/23	診療看護師(Nurse Practitioner)の目指すものと育成について☑クリティカルNPについて
	2021/2/16	ベストWeb授業賞受賞者の授業視聴FD
	2021/3/17	SNS・ネット時代の個人情報保護について

(3) 審査意見を踏まえ、以下の内容により設置の趣旨を記載した書類を修正する。

学際的な能力の修得については、本専攻では、静岡大学の共同大学院「光理工学共同専攻」の教育研究活動実績を持つという本学の強みや、モノづくり技術や光・電子技術が集積するという地域性、これまでの産学官連携、医工連携の実績を活用して、主に医学・工学・情報学分野との連携を念頭に置いている。一方で、看護学がこれまで学問的基盤を形成するにあたり取り入れてきた哲学や社会学等の分野との学際的研究を志向する学生もいると想定される。そのような学生の例修として、当初「現象学的研究」を例示していたが、本博士後期課程が目指す人材育成像はより幅広いものであるということを示すため、哲学や社会学等の分野と親和性の高い観察、インタビュー、フィールドワークといった手法を用いて看護を探究する「質的研究」と表現を改めることとする。人

間の生活に注目する看護学の分野では質的研究は以前から馴染みのあるものであるが、もともとは人類学、社会学、哲学など人文社会学系の分野で発展してきた。質的研究を行う学生に対しては、必要に応じて研究で用いる質的帰納的な分析方法に精通した副指導教員を置き指導体制を強化することや、分析方法や関連する哲学、社会学等の学内外で開催されるセミナーに参加させるなどの研究指導を行うことで、学際的な研究能力の修得が可能となると考えている。

研究指導体制としては、学生の研究内容が主指導教員の専門領域外の内容に深く関連のある場合には、その内容に精通する研究指導が可能な他の領域の教員を副指導教員として配置し、学際的な研究指導を行う。

また、医学・工学・情報学の分野については、関連する教員と共同研究体制を整備することとする。

以上のような体制、指導により学際的な研究能力の修得が可能であると考えている。(資料 A7 学際的な研究能力涵養のための指導・学修機会の提供 参照)

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>I. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>4. 専門分野・領域設定の考え方</p> <p>本博士後期課程では、<u>専門性が近く関係の深い領域を統合した広い専門領域において、多面的な研究指導が行えるよう領域次のように分野・領域を設定する。上述の考えにもとづき、1) 看護に関連する健康科学と看護の基盤となる基礎看護学を統合した「基盤看護学領域」、2) 成人期と老年期の看護学を統合することにより幅広い年齢層を対象にした看護について研究を行う「成熟期看護学領域」、3) リプロダクティブヘルス/ライツの視点に基づいた女性の健康問題、成育過程を踏まえた子どもと家族への切れ目のない支援によって次世代を育むことまでを対象とする「成育看護学領域」4) 地域看護学領域と精神看護学領域を融合し、これらを包含する地域包括ケアシステムの構築を研究対象とする「広域看</u></p>	<p>I. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>4. 専門分野・領域設定の考え方</p> <p>本博士後期課程では、<u>博士前期課程（修士課程）での高度な専門性による教育・研究成果を活かし一貫性ある教育を行っていくため、大きく構成を変更せず次のように分野・領域を設定する。まず、領域として従来の「健康科学」「基礎看護学」「成人看護学」を置き、「老人看護学」は「高齢者看護学」に名称変更する。これは、従来用いられてきた「老人」ではなく「高齢者」を用いることが社会の中で一般的になり、学術的にも「高齢者看護学」がより使われるようになったことを背景としている。これら4つの領域が属する専門分野を「基盤・成熟期看護学」とする。また、博士前期課程（修士課程）での「母性看護学」と「助産学」を統合させて、1つの「リプロダクティブヘルス看護学」という領域とする。博士前期課</u></p>

「看護学領域」の4つからなる領域を設定する。領域別設定の理由は以下のとおりである。

1) 基盤看護学領域：ゲノム編集や新型コロナウイルス感染症など今日的な健康科学の課題に関する科学的理解の基に、看護理論・看護倫理を包含した基礎看護学のテーマに取り組むことが必要であり、逆に基礎看護学の視点で健康科学のテーマに取り組むことも必要である。健康科学と基礎看護学の統合によって研究対象をさらに深く理解し、新たな視点を得ることで研究活動の充実を図る。

2) 成熟期看護学領域：超高齢化社会を迎え、人の成熟を長期間のライフサイクルでとらえる必要がある。長期間のライフサイクルのなかでは、誰もが病院における急性期医療から地域・在宅での療養や介護が必要となるため、成人期と老年期の看護学を統合することにより、幅広い年齢層を対象にした看護の創造と成熟過程に応じた専門性の深化による研究活動の充実を図る。

3) 成育看護学領域：少子化の進行及び性の多様化といった社会的要因を踏まえ、リプロダクティブヘルス/ライツの視点に基づいた女性の健康問題並びに、成育過程における子どもと家族に対する切れ目のない支援が求められている。そのため、リプロダクティブヘルス看護学と小児看護学を統合し、幅広い視野の涵養と次世代を育むための研究活動の充実を図る。

4) 広域看護学領域：地域・職域・学校などにおいて地域看護学が扱う健康問題には、ストレスや精神疾患に関連するものが多く、また精神看護学領域では精神疾患を抱える者への個別支援に加え、地域包括ケアシステムの視点を持った支援が求められ

程では、助産学は助産師養成を主たる目的としているため、現在の構成を維持し、博士後期課程においては、研究領域として統合させるものである。そして「リプロダクティブヘルス看護学」「小児看護学」「地域看護学」「精神看護学」の4つの領域が属する「成育・広域看護学」を置く。

る。そのため、地域看護学領域と精神看護学領域を融合させて広域看護学領域とし、地域包括ケアシステムの構築に寄与する研究活動の充実を図る。

専門分野	領域
基盤・成熟期看護学	<u>基盤看護学</u> <u>成熟期看護学</u>
成育・広域看護学	<u>成育看護学</u> <u>広域看護学</u>

Ⅲ. 教育課程の編成の考え方及び特色

2. 教育課程の特色

4) 「特別演習」の教育方法

学生は、自身の専門領域の「特別演習」を履修する。「特別演習」では、専門領域における研究課題に関する系統的文献レビュー・クリティークや、研究指導を行う演習を通じ、研究方法論について理解を深め、自らの課題探究のための予備的スキルを修得する。自身の研究課題に応じた研究方法について検討・討議し、研究計画の概要を作成する。

まず、関連する系統的な文献レビュー・クリティークを丹念に実施し、研究課題の設定・枠組み、研究方法の妥当性を議論し、自身の研究計画への活用について探究する。また、演習の一環として、学部生や博士前期

専門分野	領域
基盤・成熟期看護学	<u>健康科学</u> <u>基礎看護学</u> <u>成人看護学</u> <u>高齢者看護学</u>
成育・広域看護学	<u>リプロダクティブヘルス看護学</u> <u>小児看護学</u> <u>地域看護学</u> <u>精神看護学</u>

Ⅲ. 教育課程の編成の考え方及び特色

2. 教育課程の特色

4) 「特別演習」の教育方法

学生は、自身の専門領域の「特別演習」を履修する。「特別演習」では、専門領域における研究課題に関する系統的文献レビュー・クリティークや、研究指導を行う演習を通じ、研究方法論について理解を深め、自らの課題探究のための予備的スキルを修得する。自身の研究課題に応じた研究方法について検討・討議し、研究計画の概要を作成する。

まず、関連する系統的な文献レビュー・クリティークを丹念に実施し、研究課題の設定・枠組み、研究方法の妥当性を議論し、自身の研究計画への活用について探究する。また、演習の一環として、学部生や博士前期

課程学生への研究指導に参加し、研究遂行への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについてさらに理解を深める。共通科目や特講での学修を基盤として、自身の研究課題を明確化し、課題解決にもっとも適した研究方法を導き出し、研究計画の概要を立案する。

また、特別研究における研究指導だけでなく、専門性の深化と幅広い視野の涵養により、研究活動のより一層の充実を目指し、同一領域内の「特別演習」では、年5回以上合同演習を行うことで、領域内の複数の教員が学生に対して多様な視点から指導する。

5) 「特別研究」の教育方法

「特別研究」は、共通必修科目「看護学研究方法論」、共通選択科目、各専門領域の「特講」及び「特別演習」で修得した知識・技術を基盤とし、各専門領域の教員による指導のもと、自らの研究課題を設定し研究活動を展開して課題解決に資する新しい知見を明らかにし、論文を作成して公表できることを目標とする。

自身が着目する事象について研究課題として設定する。専門領域の「特論」で、研究課題の背景にある事象を幅広くかつ深く捉え、研究課題を焦点化し意義を明確にするという過程や、「看護学研究方法論」における学際的研究方法の学修を通じて、旧知の発想にとらわれず、多面的な視点で問題を捉え研究課題を設定する。研究方法の策定にあたっては、「看護学研究方法論」で学んだ学際的研究方法に関する知識や、選択必修科目で学修した専門的知識や技術、「特別演習」で検討した内容をふまえ、信頼性・妥

課程学生への研究指導に参加し、研究遂行への支援・指導に関する学修を通じて、研究活動のプロセスについてさらに理解を深める。共通科目や特講での学修を基盤として、自身の研究課題を明確化し、課題解決にもっとも適した研究方法を導き出し、研究計画の概要を立案する。

5) 「特別研究」の教育方法

「特別研究」は、共通必修科目「看護学研究方法論」、共通選択科目、各専門領域の「特講」及び「特別演習」で修得した知識・技術を基盤とし、各専門領域の教員による指導のもと、自らの研究課題を設定し研究活動を展開して課題解決に資する新しい知見を明らかにし、論文を作成して公表できることを目標とする。

自身が着目する事象について研究課題として設定する。専門領域の「特論」で、研究課題の背景にある事象を幅広くかつ深く捉え、研究課題を焦点化し意義を明確にするという過程や、「看護学研究方法論」における学際的研究方法の学修を通じて、旧知の発想にとらわれず、多面的な視点で問題を捉え研究課題を設定する。研究方法の策定にあたっては、「看護学研究方法論」で学んだ学際的研究方法に関する知識や、選択必修科目で学修した専門的知識や技術、「特別演習」で検討した内容をふまえ、信頼性・妥

当性・実現可能性の高い研究計画を立案する。

この研究計画についての中間審査を受審する。3名の審査員から成る中間審査委員会によって計画の適切性が審査され、提示された修正・改善点をふまえて研究計画を修正し、倫理審査を受ける。

倫理審査委員会の承認を得た後、データ収集のための手続きをとり、パイロットスタディによってデータ収集方法、分析方法の洗練化を行ってデータ収集を実施する。得られたデータを分析し、結果を検証し、博士論文を作成して投稿する。国内学会や国際学会で成果を発表する。投稿し受理された論文及び関連する知識などについて博士論文審査委員会で発表し審査を受ける。

本学が実施している「慶北-浜松合同医学シンポジウム」において、学生が進めている研究の内容などについて英語での発表を「特別研究」の一部として課す。その研究発表については主指導教員が内容とともに英語での適切なプレゼンテーションとなるよう学生の理解度・進行度により適切に指導する。また、シンポジウムの場合においても慶北大学校（韓国）の研究者とのディスカッションを通じて実践的な指導を行うこととする。

光医工共同専攻の科目の履修やセミナーの受講についても主指導教員と1年次に研究課題を絞り込む際に、研究指導の中で相談した上で受講することとし、受講の都度レポートを提出し、特別研究の中で評価を行うこととする。

これらのプロセスを通じて、自立して独創的な看護学研究を実施する力はもとより、新しい学際的課題にチャレンジできる

当性・実現可能性の高い研究計画を立案する。

この研究計画についての中間審査を受審する。3名の審査員から成る中間審査委員会によって計画の適切性が審査され、提示された修正・改善点をふまえて研究計画を修正し、倫理審査を受ける。

倫理審査委員会の承認を得た後、データ収集のための手続きをとり、パイロットスタディによってデータ収集方法、分析方法の洗練化を行ってデータ収集を実施する。得られたデータを分析し、結果を検証し、博士論文を作成して投稿する。国内学会や国際学会で成果を発表する。投稿し受理された論文及び関連する知識などについて博士論文審査委員会で発表し審査を受ける。

これらのプロセスを通じて、自立して独創的な看護学研究を実施する力はもとより、新しい学際的課題にチャレンジできる

能力を培う。「特別研究」は、博士後期課程における学修の集大成の場であり、研究活動を実施するためのステップについて着実に高度な研鑽を重ねていくことが、地域、国内外でオピニオンリーダーとして貢献するための素養を培っていくことにつながる。

IV. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

5. 学際的研究能力涵養のための指導・学修機会の提供

また本学は産学連携・知財活用推進センターを中心に、組織的な産学官連携を推進している。ものづくりの気概にあふれ技術力や産業開発力を備えた「浜松」という地域の特徴と「医療・医学」のシーズ・ニーズを融合しメディカルイノベーションの創出を目指しており、なかでも近年は、JST 地域産学官共同研究拠点整備事業「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」において多くの産学官連携によるプロジェクトを実施してきている。このようなプロジェクトによる、産業界や工学を始めとした異分野との連携による研究シーズの発掘や成果活用のためのセミナー・ワークショップ等が開催・紹介され、学内の教員・学生へ周知されている。このように、本学においては、学際的研究を推進する雰囲気が醸成され、実績が積み重ねられてきているが、本博士後期課程が掲げる、異分野融合により新たな価値を生み出す研究能力を備えた学生を養成するには、そのような環境を十二分に活用していくことが重要である。活用の例としては、研究テーマとして、新しい健康管理上のデバイスを用いた患者への介入研究を検討している学生に対して、大学院光医工学共同

能力を培う。「特別研究」は、博士後期課程における学修の集大成の場であり、研究活動を実施するためのステップについて着実に高度な研鑽を重ねていくことが、地域、国内外でオピニオンリーダーとして貢献するための素養を培っていくことにつながる。

IV. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

5. 学際的研究能力涵養のための指導・学修機会の提供

また本学は産学連携・知財活用推進センターを中心に、組織的な産学官連携を推進している。ものづくりの気概にあふれ技術力や産業開発力を備えた「浜松」という地域の特徴と「医療・医学」のシーズ・ニーズを融合しメディカルイノベーションの創出を目指しており、なかでも近年は、JST 地域産学官共同研究拠点整備事業「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」において多くの産学官連携によるプロジェクトを実施してきている。このようなプロジェクトによる、産業界や工学を始めとした異分野との連携による研究シーズの発掘や成果活用のためのセミナー・ワークショップ等が開催・紹介され、学内の教員・学生へ周知されている。このように、本学においては、学際的研究を推進する雰囲気が醸成され、実績が積み重ねられてきているが、本博士後期課程が掲げる、異分野融合により新たな価値を生み出す研究能力を備えた学生を養成するには、そのような環境を十二分に活用していくことが重要である。活用の例としては、研究テーマとして、新しい健康管理上のデバイスを用いた患者への介入研究を検討している学生に対して、大学院光医工学共同

専攻で開講している「メディカルデバイスデザイン」「医薬品・医用機器開発概論」などの積極的受講を推奨する、工学・情報学系のセミナーや研究発表会への継続的な参加を促す、工学・情報学の研究室を見学し意見交換のできる機会を設定する、といったことが挙げられる。これらを学生の自発的参加に委ねるだけでなく、主指導教員が当該分野の研究者と共同研究を行う体制を整備することによって可能とし、学生が実施する学際的研究をサポートする仕組みを構築する。

主指導教員は受講した科目の担当教員とも連携をとり、学生が様々な分野の教員からの指導を受けられる体制を構築する。産学連携・知財センターが開催している「産学連携・知財セミナー」、「大学院特別講演」、「FD講演会」などのセミナーの受講についても主指導教員と1年次に研究課題を絞り込む際に、研究指導の中で相談した上で受講することとし、受講の都度レポートを提出し、特別研究の中で評価をすることとする。

基本的には学生と主指導教員が相談の上受講する科目やセミナーを決定することとしており、可能な限り受講できるよう努めていくが、受講ができなかった場合は、担当教員と連携をとり、オフィスアワーを活用し個別別指導を行うこととする。なお、セミナーはリアルタイムで受講できなかった場合でも、各セミナーにおいて、録画した内容を浜松医科大学の学修支援システムに掲載することで、後日 e-learning で受講ができるような環境を整備する。

また、博士後期課程での自身の研究テーマが学際的研究に該当しない学生であって

専攻で開講している「メディカルデバイスデザイン」「医薬品・医用機器開発概論」などの積極的受講を推奨する、工学・情報学系のセミナーや研究発表会への継続的な参加を促す、工学・情報学の研究室を見学し意見交換のできる機会を設定する、といったことが挙げられる。これらを学生の自発的参加に委ねるだけでなく、主指導教員が当該分野の研究者と共同研究を行う体制を整備することによって可能とし、学生が実施する学際的研究をサポートする仕組みを構築する。

また、博士後期課程での自身の研究テーマが学際的研究に該当しない学生であって

も、学際的研究についてその素養を身に付けることは、教育・研究者、管理者等どのようなキャリアを進めて行く場合であっても重要である。したがって、このような学生に対しても、正規の授業時間外に提供されている学修機会を積極的に活用するよう指導する。

V. 基礎となる学部（修士課程）との関係

一貫性のある大学院教育を提供するため、博士前期課程・博士後期課程とする。

現修士課程（博士前期課程）では、豊かな学識と優れた技能を有し、社会の要請に応え得る、高度な専門性と実践能力を備えた看護のプロフェッショナルを育成することを目的としており、5つの専門分野で構成している。博士後期課程設置にあたり、専門分野の名称を見直し、領域名は博士前期・後期課程を通じて共通とする。ただし、博士前期課程では助産学は助産師養成を主たる目的としているため、現在の構成を維持し、後期課程においては、助産学は別個とせず、母性看護学と統合させ、リプロダクティブヘルス看護学とする。

また、博士後期課程では定員を3名と予定しており、定員数よりも少ない、より広い専門分野の区分で教育を行う方が望ましいと考え、2区分 **4領域** から成る構成とする。

も、学際的研究についてその素養を身に付けることは、教育・研究者、管理者等どのようなキャリアを進めて行く場合であっても重要である。したがって、このような学生に対しても、正規の授業時間外に提供されている学修機会を積極的に活用するよう指導する。

V. 基礎となる学部（修士課程）との関係

一貫性のある大学院教育を提供するため、博士前期課程・博士後期課程とする。

現修士課程（博士前期課程）では、豊かな学識と優れた技能を有し、社会の要請に応え得る、高度な専門性と実践能力を備えた看護のプロフェッショナルを育成することを目的としており、5つの専門分野で構成している。博士後期課程設置にあたり、専門分野の名称を見直し、領域名は博士前期・後期課程を通じて共通とする。ただし、博士前期課程では助産学は助産師養成を主たる目的としているため、現在の構成を維持し、後期課程においては、助産学は別個とせず、母性看護学と統合させ、リプロダクティブヘルス看護学とする。

また、博士後期課程では定員を3名と予定しており、定員数よりも少ない、より広い専門分野の区分で教育を行う方が望ましいと考え、2区分から成る構成とする。

(修士課程→博士前期課程)

専門分野 (現行→見直し案)	領域
基礎看護学→ 基盤看護学	健康科学 基礎看護学
成人・老人看護学→ 成熟期看護学	成人看護学 高齢者看護学
母子看護学→ 成育看護学	母性看護学 小児看護学
地域・精神看護学→ 広域看護学	地域看護学 精神看護学
助産学	助産学

(博士後期課程)

専門分野	領域
基盤・成熟期看護学	<u>基盤看護学</u> <u>成熟期看護学</u>
成育・広域看護学	<u>成育看護学</u> <u>広域看護学</u>

(修士課程→博士前期課程)

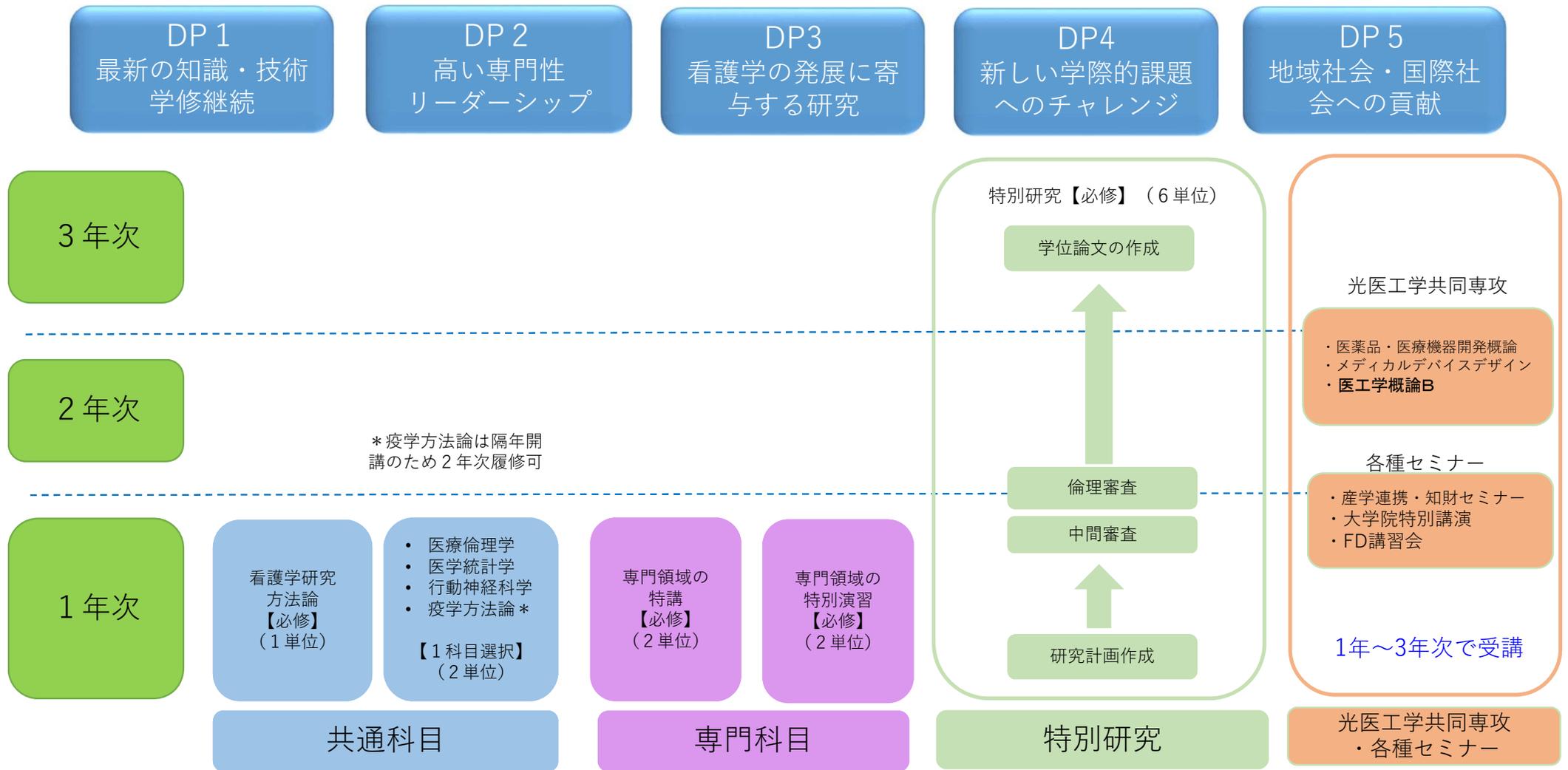
専門分野 (現行→見直し案)	領域
基礎看護学→ 基盤看護学	健康科学 基礎看護学
成人・老人看護学→ 成熟期看護学	成人看護学 高齢者看護学
母子看護学→ 成育看護学	母性看護学 小児看護学
地域・精神看護学→ 広域看護学	地域看護学 精神看護学
助産学	助産学

(博士後期課程)

専門分野	領域
基盤・成熟期看護学	<u>健康科学</u> <u>基礎看護学</u> <u>成人看護学</u> <u>高齢者看護学</u>
成育・広域看護学	<u>リプロダクティブヘルス看護学</u> <u>小児看護学</u> <u>地域看護学</u> <u>精神看護学</u>

看護学専攻（博士後期課程）履修系統図

資料A3



学際的研究能力涵養のための 指導・学修機会の提供

資料A7

例

新しい健康管理デバイスを用いた患者への介入研究をテーマとする学生

例

特定の看護場面における看護師と患者家族との相互作用を明らかにする質的研究をテーマとする学生

- 必修科目
看護学研究方法論の履修
(工学・情報学の教員による授業)
- 共通選択科目
1科目以上履修
 - ・行動神経科学
 - ・医学統計学
 - ・疫学方法論
 - ・医療倫理学

当該分野（工学・情報学等）の研究室の見学、定期的な情報交換への参加

浜松医科大学大学院 光医工学共同専攻で開講している授業の受講（「メディカルデバイスデザイン」「医薬品・医用機器開発概論」等）

用いる質的研究の分析方法や関連した学問分野（哲学・社会学等）の学内外のセミナー等への参加

主指導教員が当該分野の研究者と共同研究体制を整備
学生の学際的研究をサポート

産学官連携のプロジェクトによるセミナー、研究発表会やワークショップ等への継続参加

用いる分析方法に精通した副指導教員との研究指導体制の構築



(是正事項) 医学研究科 看護学専攻 (D)

4. 入学者選抜において、社会人の入学を想定するが、社会人枠は設けないとある。一方で、社会人の選抜に当たっては、社会人としての経験を含めて総合的に評価するとあるが、選抜方法や評価方法が不明確なため、アドミッション・ポリシーとの整合性も踏まえて具体的に説明するとともに、修士課程から進学する学生に対する選抜・評価方法との違いを説明すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、以下のとおり設置の趣旨を記載した書類を修正する。

社会人に対する選抜方法と修士課程からの進学者に対する選抜方法については、いずれの場合も、筆記試験の成績、面接（口述試験）及び出願書類の内容を総合的に評価することとしている。両者に対する評価の観点は同じであり、評価に差をつけることは想定していない。

入学者選抜においては、特に研究計画の具体性を確認することとしている。その際、社会人は実務経験に基づく着想や医療現場の課題やニーズに基づいた研究計画となることから、具体的な課題意識を持った社会人の入学が想定される。「社会人としての経験を含めて総合的に評価する」という表記はその旨を記載したものである。このことはアドミッション・ポリシーに掲げる「2）自立して独創的な研究を行う能力」と整合していると考えられる。

入学者選抜では、主に英語論文を読解し、その内容の理解度を判定する筆記試験（英語）、修士課程における研究、これまでにに行った主な研究及び博士後期課程での研究計画案に関するプレゼンテーションの評価を行う口述試験及び出願書類（志望理由書等）を総合的に評価・判定することとしている。

入学者選抜とのアドミッション・ポリシーとの対応は以下のとおりでありこの内容を考慮の上、評価・判定を行うこととしている。

- 筆記試験（英語） 1)、4)
- 口述試験 過去に実施した研究・博士後期課程における研究計画 1)、2)、3)、4)
- 出願書類（志望理由書等） 1)

(アドミッション・ポリシー)

本博士後期課程は、看護学分野での新たな価値の創出に貢献できる教育・研究を行う高度専門人材を養成するため、入学時には以下のような資質を備えた学生を求める。

- 1) 科学的・論理的思考を備え、看護に関する高度な専門知識や技術を身につけて看護学の発展に寄与する教育者・研究者・看護管理者・看護政策者を目指す人

- 2) 自立して独創的な研究を行う能力を身につけ、生涯にわたり学問を探究しようとする人
- 3) 高い倫理観と人間性を備え、看護学の分野で指導的役割を果たす意欲を持つ人
- 4) 地域への関心のみならず、国際的・学際的視野を持ち、人間の健康と福祉に貢献する意欲を持つ人

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>VI. 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施</p> <p>6. 入学者選抜の概要</p> <p>入学者選抜方法においては、筆記試験の成績、面接及び出願書類の内容を総合的に判断することとし、入学試験において社会人特別枠は設けていない。しかし、口述試験ではこれまでの研究及び今後の研究計画の概要等についてプレゼンテーションを行うなど、社会人経験を基にして今後の展望を表現し得る場が設けられており、社会人としての経験を含めて総合的に評価できる内容となっている。</p> <p><u>社会人に対する選抜方法と修士課程からの進学者に対する選抜方法については、いずれの場合も、筆記試験の成績、面接（口述試験）及び出願書類の内容を総合的に評価することとしている。両者に対する評価の観点は同じであり、評価に差をつけることは想定していない。</u></p> <p><u>入学者選抜においては、特に研究計画の具体性を確認することとしている。その際、社会人は実務経験に基づく着想や医療現場の課題やニーズに基づいた研究計画となることから、具体的な課題意識を持った社会人の入学が想定される。</u></p> <p>VII. 入学者選抜の概要</p>	<p>VI. 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施</p> <p>6. 入学者選抜の概要</p> <p>入学者選抜方法においては、筆記試験の成績、面接及び出願書類の内容を総合的に判断することとし、入学試験において社会人特別枠は設けていない。しかし、口述試験ではこれまでの研究及び今後の研究計画の概要等についてプレゼンテーションを行うなど、社会人経験を基にして今後の展望を表現し得る場が設けられており、社会人としての経験を含めて総合的に評価できる内容となっている。</p> <p>VII. 入学者選抜の概要</p>

<p>3. 入学選抜方法</p> <p>出願書類、筆記試験及び口述試験の内容を総合的に判断し、本課程のアドミッション・ポリシーにふさわしい入学者を選抜する。</p> <p><u>入学者選抜では、主に英語論文を読解し、その内容の理解度を判定する筆記試験（英語）、修士課程における研究、これまでに行った主な研究及び博士後期課程での研究計画案に関するプレゼンテーションの評価を行う口述試験及び出願書類（志望理由書等）を総合的に評価・判定することとしている。</u></p> <p><u>入学者選抜とのアドミッション・ポリシーとの対応は以下のとおりでありこの内容を考慮の上、評価・判定を行うこととしている。</u></p> <p>● <u>筆記試験（英語）</u> 1)、4)</p> <p>●<u>口述試験 過去に実施した研究・博士後期課程における研究計画 1)、2)、3)、4)</u></p> <p>● <u>出願書類（志望理由書等）</u> 1)</p>	<p>3. 入学選抜方法</p> <p>出願書類、筆記試験及び口述試験の内容を総合的に判断し、本課程のアドミッション・ポリシーにふさわしい入学者を選抜する。</p>
--	---